KL-M6

取扱説明書 保証書付

ご使用の前に本書の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

J Z

準備編	電源との接続、テープカートリッジの装着などを説明しています。
おためし印刷編	簡単なデータを作って印刷するまでの流れを説明しています。
ラベル作成編	工夫したデータの作り方を説明しています。
入力・編集編	文字の入力・修正や書体の変更などを説明しています。
設定編	画面の輝度、印刷の濃度の設定などを説明しています。
付録	使い方が分からなくなったときの対処などを説明しています。

RJA519593-001V01

CASIO

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

あらかじめご承知いただきたいこと

■本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点やお気付きの点などがありましたらカシオテクノ修理相談窓口までご連絡ください。
■本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
■ 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
■本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。個人としてご利用になる他は、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
■本書の内容は改良のため、将来予告なく変更することがあります。
■本書の印刷例や表示画面などは、実物と多少異なる場合があります。ご了承ください。

当社では「廃棄物ゼロ」を実現するため、使用済みのテープカートリッジを回収 / 分解し、再資源化しております。
使用済みのテープカートリッジはお買い求めの販売店までお持ちください。

安全上のご注意

このたびは本機をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。本書は、お読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険がさし迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⃠ 記号は「してはいけないこと」を意味しています（左の例は分解禁止）。

● 記号は「しなければならないこと」を意味しています。

⚠ 危険

アルカリ電池について

アルカリ電池からもれた液が目に入ったときは、すぐに次の処置を行ってください。

1. 目をこすらずにすぐにきれいな水で洗い流す。
2. ただちに医師の治療を受ける。

そのままにしておくと失明の原因となります。

⚠ 警告

煙、臭い、発熱などの異常について

煙が出ている、へんな臭いがする、発熱しているなどの異常状態のまま使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. AC アダプター使用時は、プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

AC アダプターについて

AC アダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となります。
次のことは必ずお守りください。

- 必ず付属品を使用する
- 電源は、AC100V(50/60Hz) のコンセントを使用する
- １つのコンセントにいくつもの電気製品をつなぐ、いわゆるタコ足配線をしない

⚠ 警告

AC アダプターについて

電源コードは使いかたを誤ると、傷がついたり破損して、火災・感電の原因となります。
次のことは必ずお守りください。

- 重いものを乗せたり、加熱しない
- 加工したり、無理に曲げない
- ねじったり、引っ張ったりしない
- 電源コードやプラグが傷んだらお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する

AC アダプターについて

- 濡れた手で電源コードやプラグに触れないでください。
  感電の原因となります。
- AC アダプターは水のかからない状態で使用してください。水がかかると火災や感電の原因となります。
- AC アダプターの上に花瓶など液体の入ったものを置かないでください。水がかかると火災や感電の原因となります。

⚠ 警告

電池について

電池は使いかたを誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となります。
次のことは必ずお守りください。

- 分解しない、ショートさせない
- 加熱しない、火の中に投入しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池を混ぜて使用しない
- 充電しない
- 極性（＋と－の向き）に注意して正しく入れる

電池について

本機内で電池が液もれしたまま使用すると火災・感電の原因となりますので、すぐに本機の使用をやめてお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡してください。

落とさない、ぶつけない

本機を落としたときなど、破損したまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. AC アダプター使用時は、プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

⚠ 警告

分解・改造しない

本機を分解・改造しないでください。感電・やけど・けがをする原因となります。
内部の点検・調整・修理はお買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご依頼ください。

水、異物はさける

水、液体、異物（金属片など）が本機内部に入ると、火災・感電の原因となります。すぐに次の処置を行ってください。

1. 電源スイッチを切る。
2. AC アダプター使用時は、プラグをコンセントから抜く。
3. お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡する。

火中に投入しない

本機を火中に投入しないでください。破裂による火災・けがの原因となります。

袋をかぶらない、飲み込まない

本機が入っていた袋をかぶったり飲み込んだりしないでください。窒息の原因となります。
特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

⚠ 警告

電子レンジでの加熱に使う容器にはラベルを貼らない

電子レンジでの加熱に使用する容器には、ラベルを貼らないでください。ラベルに使用している材質に金属が含まれているため、電子レンジで加熱すると発火や火傷の原因となります。
また、ラベルを貼ったものが変形することがあります。

⚠ 注意

AC アダプターについて

AC アダプターは使いかたを誤ると、火災・感電の原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- ストーブ等の熱器具に近づけない
- プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない（必ず AC アダプター本体のプラグを持って抜く）
- プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む
- 旅行などで長期間使用しないときはプラグをコンセントから抜く
- ご使用後は電源スイッチを切り、プラグをコンセントから抜く
- プラグは年 1 回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分にほこりがたまらないように、乾いた布や掃除機で清掃する
- AC アダプター（特にプラグやジャック部分）の清掃には、洗剤を使用しない

電池について

電池は使いかたを誤ると液もれによる周囲の汚損や、破裂による火災・けがの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 本機で指定されている電池以外は使用しない
- 長時間使用しないときは、本体から電池を取り出しておく

⚠ 注意

大切なデータは控えをとる

本機に記憶させた内容は、ノートに書くなどして本機とは別に必ず控えを残してください。本機の故障や修理などにより、記憶内容が消えることがあります。

重いものを置かない

本機の上に重いものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

置き場所について

本機を次のような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い場所
- 調理台のそばなど油煙が当たるような場所
- 暖房器具の近く、ホットカーペットの上、直射日光が当たる場所、炎天下の車中など本機が高温になる場所

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や高い棚の上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

⚠ 注意

乾電池のセットおよび乾電池交換時の注意

本機電池収納部内の電池バネには、鋭利な部分があります。「乾電池をセットするとき」や「乾電池を交換するとき」には、電池バネには触らないでください。指を切る恐れがあります。

高温注意

プリンターヘッドおよびまわりの金属部分には触らないでください。高温になるため、やけどする恐れがあります。

表示画面について

- 液晶表示画面を強く押したり、強い衝撃を与えないでください。
  液晶表示画面のガラスが割れてけがの原因となることがあります。
- 液晶表示画面が割れた場合、表示画面内部の液体には絶対に触れないでください。
  皮膚の炎症の原因となることがあります。
- 万一、口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- 目に入ったり、皮膚に付着した場合は、清浄な流水で最低 15 分以上洗浄したあと、医師に相談してください。

⚠ 注意

オートテープカッターに注意する

電源を入れたときや印刷中は、プリンターヘッドやテープ通路付近に触れないでください。
オートテープカッターが動くことがあり、けがをする恐れがあります。

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

テレビ・ラジオのそばでのご使用について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

ご使用上の注意

本機を末ながくご愛用いただくために以下の点にご注意ください。

- 直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、静電気の発生しやすい場所、急激な温度変化がおこる場所、極端な高低温下での使用は避けてください。
  使用温度範囲は、10℃～ 35℃です。
- 10℃未満の低温下で使用すると、電池の特性上、電池容量が低下するため画面に「電池残り少」と表示されやすくなります。その場合は、本機を使用温度範囲 (10℃～ 35℃) の環境に戻してからご使用ください。
- 強い衝撃や大きな力を加えないようにご注意ください。
- プリンター部分にクリップやピンなどを落とさないでください。
- テープを無理に引き出したり、押し込んだりしないでください。
- プリンターヘッドが汚れると、印字が不鮮明になります。この場合は、お手入れの方法（67 ページ）をご覧になり、プリンターヘッドやゴムローラーをきれいにしてください。
- 本機を直射日光などの強い光が当たる場所で使用した場合、本機内部にある光センサーが誤動作を起こしエラーメッセージを表示することがあります。強い光が当たらない場所でお使いください。

目次

準備編 …… 9

各部の名前とはたらき……9
付属品を確認しましょう…… 10
本機の操作の流れ…… 11
電源について…… 12
AC アダプターで使う …… 12
はじめて使うときは「メモリーの初期化」を！…… 13
電源を入れる・切る…… 13
オートパワーオフ（節電）機能について …… 13
印刷する文章の作り方について …… 14
テープカートリッジを取り付ける / 取り外す…… 15
テープカートリッジを取り付ける …… 15
テープカートリッジを取り外す …… 16
キーのはたらき…… 18
キーの表記について …… 19
画面について…… 20

おためし印刷編 ……21

まずは作ってみましょう…… 21
ラベルを印刷する …… 21
ラベルを貼る …… 23
テープを空送りする …… 23
テープの余白を「送り無」にしたときは …… 23
終了する …… 24
文字の入力について …… 24
印刷時の注意事項…… 24
印刷とカットモード…… 25
カットモードについて（オートカッター）…… 25
カットのしかたと余白について …… 27

ラベル作成編 ……28

ラベル作成の流れ…… 28
操作の流れ …… 28
フォーマットを選んで作る（用途別ラベル）…… 29
フォーマットを選ぶ …… 29
通し番号のついたラベルを作る（ナンバリング）…… 31
ナンバリングの種類 …… 31
ロゴ入りのラベルを印刷する（デザインロゴ）…… 33

フリーラベル
自由に入力して作る（フリーラベル）…… 35
2 行以上のラベルを作る…… 35
ラベルの書式を決める…… 36
ラベルの長さを自由に決める…… 39
ラベル全体の長さを自由に設定する（テープ長固定）……39
CD・DVD・VHS 用のラベルなどを簡単に設定する
（テープ長さダイレクト設定キー）…… 40
文章のバランスを整える（割付）…… 41
文字の大きさを決める…… 42
フレームを付ける…… 44
縦書きのラベルを作る…… 45

作成したデータを登録する・呼び出す…… 46
データを登録する …… 46
登録したデータを呼び出す …… 47
登録したデータを削除する …… 47

入力・編集編 ……48

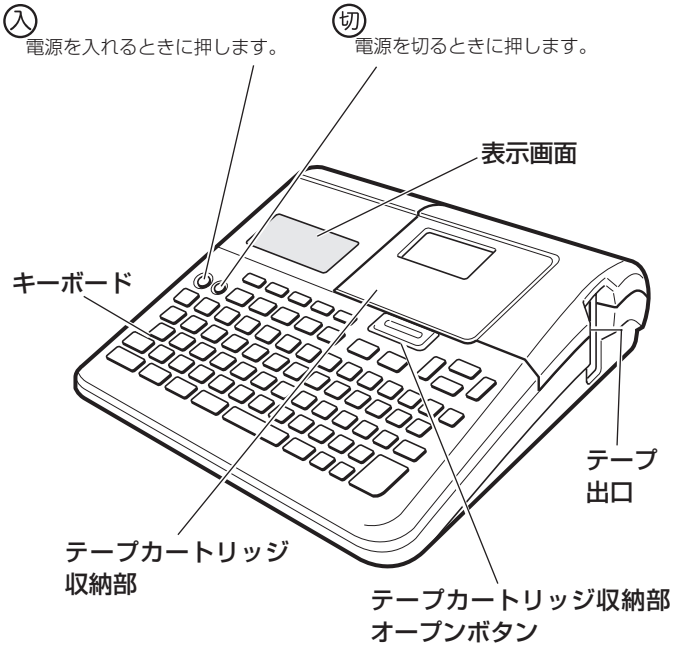
カーソルのはたらきと動かし方…… 48
ローマ字入力？それともかな入力？…… 49
ローマ字入力とかな入力を切り換える …… 49
入力する文字の切り替え方法…… 49
ひらがな・カタカナの入力 …… 49
アルファベット（大文字・小文字）の入力 …… 49
ひらがな・カタカナの入力…… 50
ひらがなの入力 …… 50
カタカナの入力 …… 50
いろいろな文字の入力方法 …… 51
漢字の入力…… 51
文章を入力してから変換する …… 51
同音異義語を変換する …… 52
漢字 1 文字ずつ変換する（単漢字変換）…… 53
アルファベット・数字・記号・絵文字の入力…… 54
アルファベットの入力 …… 54
数字の入力 …… 54
記号（キーに印刷されているもの）の入力 …… 55
記号（その他の記号）の入力 …… 55

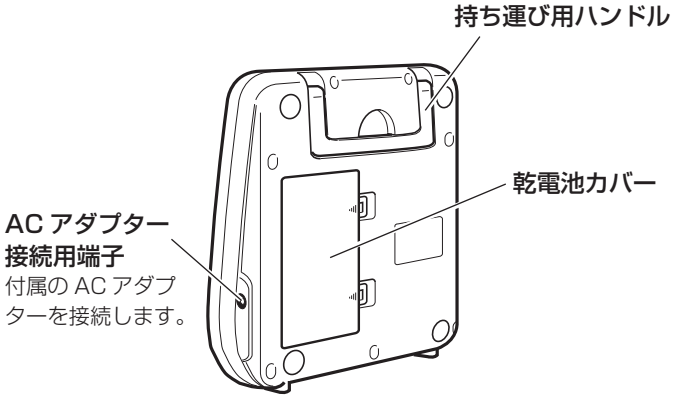
絵文字の入力 …… 56
文字を修正・削除するときは …… 56
文字を1文字ずつ消す …… 56
すべての文字を消す（文削除） …… 57
間違った文字を直す …… 58
書体（フォント）を変える …… 60
入力済みの文字の書体を変える …… 60
電源を入れたときの書体を決める …… 61
文字を目立たせる …… 62
文字に飾りをつける …… 63

設定編 ……64
設定を変える …… 64
設定できる項目 …… 64
画面の明るさを変えたい …… 64
印刷の濃さを変えたい …… 64
サンプルデータを印刷する（デモ印刷） …… 65

付　録 ……66
電源について …… 66
乾電池で使う …… 66
お手入れの方法 …… 67
綿棒できれいにする …… 67
クリーニングテープを使う …… 67
こんなときは（トラブルシューティング） …… 68
エラーメッセージ一覧 …… 71
ローマ字入力一覧 …… 74
記号・絵文字一覧 …… 75
フレーム一覧 …… 78
用途別ラベルフォーマット一覧 …… 79
ナンバリングフォーマット一覧 …… 82
テープ幅と行数・倍率一覧 …… 82
各機能における使用可能テープ幅一覧 …… 82
デザインロゴ一覧 …… 83
内蔵漢字一覧 …… 85
仕様 …… 90
別売品について …… 91
索引 …… 92
保証・アフターサービスについて …… 94

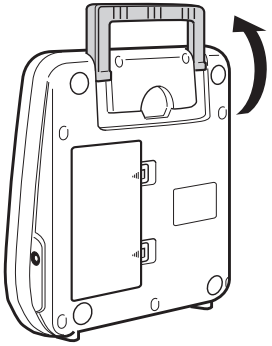
各部の名前とはたらき





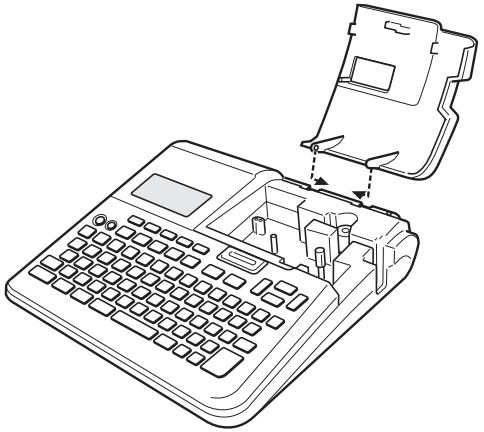
■持ち運ぶときは

本機を持ち運ぶときは、図のように持ち運び用ハンドルを引き上げてお使いください。



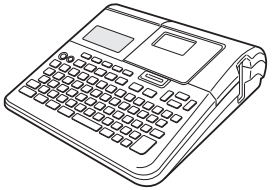
■テープカートリッジ収納部のカバーが外れてしまったら

テープカートリッジ収納部のカバーが外れてしまったときは、図のようにセットしてください。カバーを無理な方向に曲げたりねじったりすると、突起や穴が破損する恐れがありますのでご注意ください。

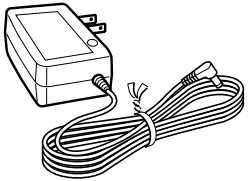


付属品を確認しましょう

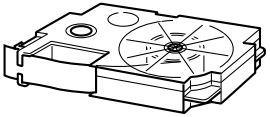
KL-M6 本体



AC アダプター
AD-A12090L



お試し用テープカートリッジ



本書（保証書付）
別売品カタログ

本機の操作の流れ

AC アダプターの接続
または乾電池のセット
12 ページ
66 ページ

- **購入後、はじめて使うときはメモリーの初期化をしてください。（13 ページ）**
- メモリーの初期化をすると本機に記憶したデータが消去されます。必要のないときはメモリーの初期化はしないでください。

↓

テープカートリッジの取り付け 15 ページ

↓

自由に入力して作る
フリーラベル　21、35 ページ
フリーラベルの編集機能
35 ページ

用途に応じて作る
用途別ラベル　29 ページ
ナンバリング　31 ページ
デザインロゴ　33 ページ

↓

印刷する 22 ページ

電源について

本機を使うときは、電源として付属の AC アダプターまたは市販のアルカリ乾電池を使います。
• ご使用前に、「安全上のご注意」（1 ～ 5 ページ）を必ずご覧ください。
• 市販の乾電池のセットについては、66 ページをご覧ください。

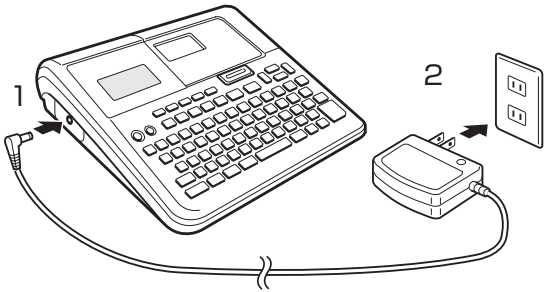
AC アダプターで使う

■取り付ける

重要 • 付属の AC アダプター以外は使用しないでください。

1 AC アダプターのプラグを、本機の AC アダプター接続用端子に差し込みます。

2 AC アダプターをご家庭のコンセント< AC100V >に差し込みます。

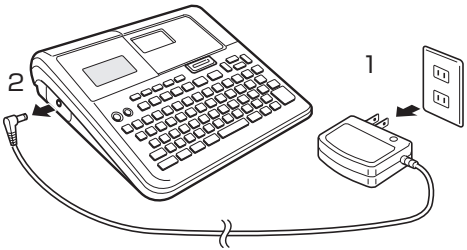


■取り外す

重要 • 印刷中に AC アダプターを取り外さないでください。故障の原因となります。
• 電源が入っているときや、電源を切った後も表示が画面から完全に消えるまでは、AC アダプターや乾電池を取り外さないでください。一時的に保存された作成中の文章、本機に登録した文章、設定された内容が消去されてしまいます。
• 「AC アダプターから電池に切り替えるとき」「電池から AC アダプターに切り替えるとき」は、必ず、一度電源を切ってください。電源が入っているときに切り替えをすると、電源が切れて作成中の文章が消去される場合があります。
• 本機に登録した重要なデータは、ノートなどに控えを取っておいてください。

1 コンセントから AC アダプターのプラグを抜きます。

2 本機の AC アダプター接続用端子から AC アダプターのプラグを抜きます。



重要 電源コードの両端部分は、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。また、電源コードの両端部分が折り曲げられた状態で保管しないでください。コードが断線して故障の原因となります。

はじめて使うときは「メモリーの初期化」を!

ご購入後、本機をはじめて使うときは、必ず**メモリーの初期化**という操作をします。「メモリーの初期化」をしないと、正しく動かないことがあります。

重要 メモリーの初期化をすると、本機に記憶したデータが消えてしまいますので、必要のないときはメモリーの初期化をしないでください。

1 **電源が切れていることを確認します。**
画面に何か文字があるときなど電源が入っているときは、(切)を押します。

2 **印刷と空白をいっしょに押しながら、(入)を押します。**
印刷と空白をいっしょに押し続けたまま、(入)から指を離します。

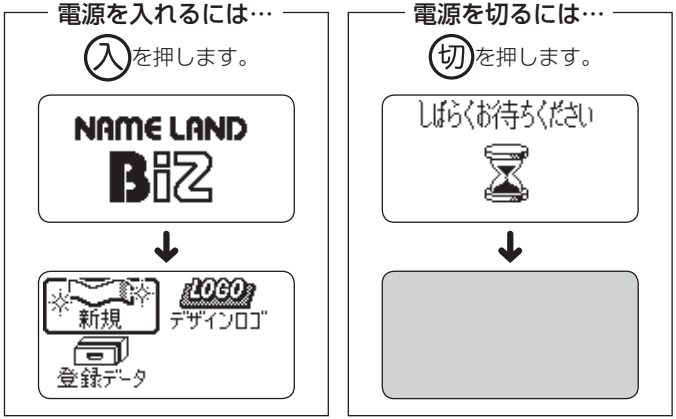
3 **印刷と空白から指を離します。**
「メモリー初期化？　実行／取消し」が表示されます。

4 **実行を押します。**

メモリーとは
本機内部にあり、作成した文章などを記憶する場所です。
「メモリーの初期化」とは
本機が正常な動作をするために、電気的な設定をすることです。「メモリーの初期化」をすると、画面に表示されている文章とメモリーに記憶されているデータは消えてしまいます。
また、いろいろな設定も製造時に定められた設定に戻ります。

電源を入れる・切る

一度「メモリーの初期化」をしたら、次からは(入)を押すだけで本機を使うことができます。



• 画面の明るさを調整するときは、64 ページをご覧ください。

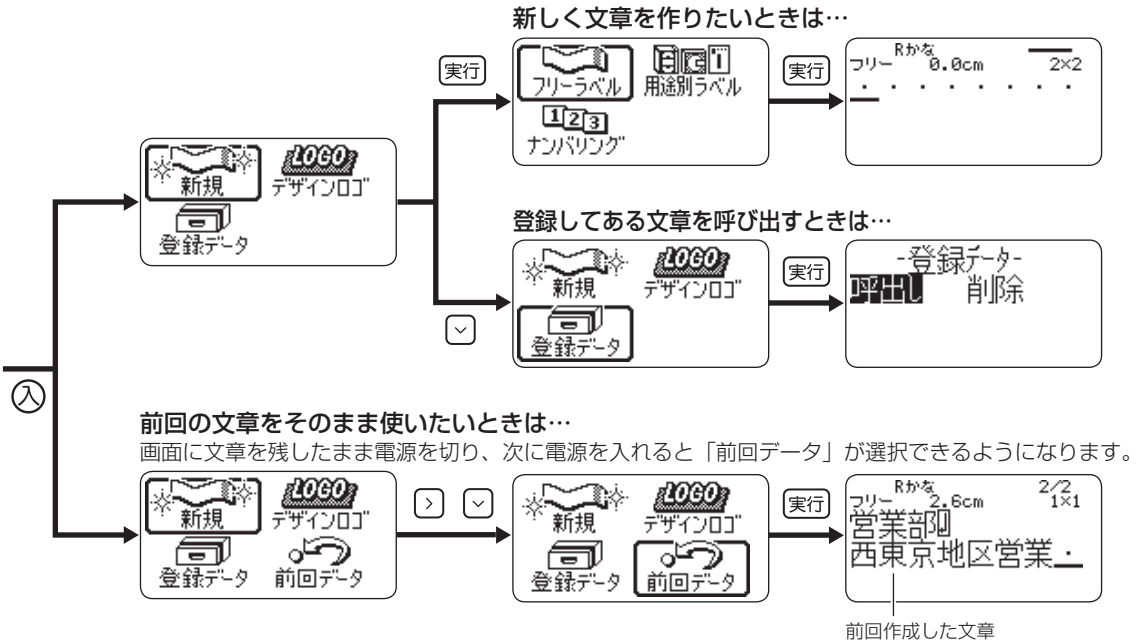
オートパワーオフ（節電）機能について

何も操作をしないで、約 6 分間電源を入れたままにしておくと、電源は自動的に切れます。これを**オートパワーオフ機能**といいます。
再び本機を使うときは、(入)を押してください。

印刷する文章の作り方について

本機では、文章の作り方について、次の 3 つがあります。

- 新しく文章を作る
- 登録してある文章を呼び出して作る
- 電源を切る前に入力していた文章（前回の文章）を呼び出して作る



- 電源を入れた直後の画面で「前回データ」以外を選択したときや、デモ印刷をすると、前回作成したデータは消えてしまいます。大切なデータは、登録してから上記の操作をしてください。（データの登録→ 46 ページ）

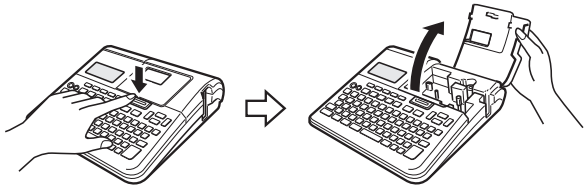
テープカートリッジを取り付ける / 取り外す

ラベルを印刷するときには、テープカートリッジが必要です。
付属品および別売のテープカートリッジをお使いください。
・テープカートリッジについては、付属の「別売品カタログ」をご覧ください。

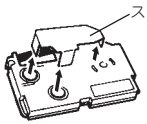
テープカートリッジを取り付ける

1 ㊀を押して、電源を切ります。

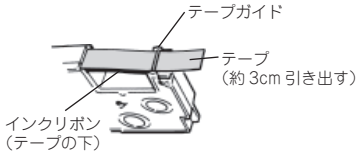
2 収納部オープンボタンを押して、テープカートリッジ収納部のカバーを開けます。



3 テープカートリッジについているストッパーを取り外します。



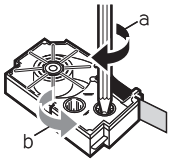
4 テープとインクリボンの状態を確認します。
- テープの先が曲がっていない（曲がっていたらハサミで曲がった部分をカットする）
- テープの先がテープガイドを通っている
- インクリボンがたるんでいない



重要
- 一度引き出したテープを戻すことはできません。
- 無理に引き出さないでください。インクリボンが切れるなど、故障の原因になります。
- インクリボンがたるんだままテープカートリッジをセットすると、インクリボンが切れるなど、故障の原因になります。

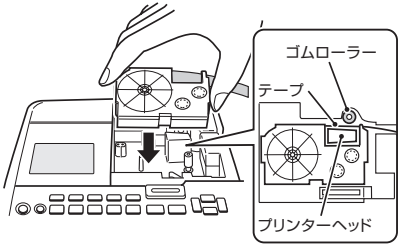
インクリボンがたるんでいたら、たるみを取ります

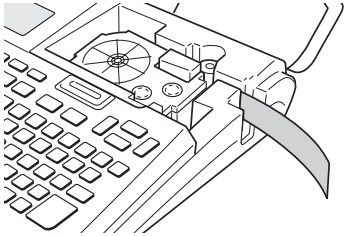
インクリボンがたるんでいたら、a のように、右上の軸をえんぴつなどで矢印方向に回します。b の方向に左下の軸が回り始めるまで右上の軸を回してください。
このとき、テープはいっしょに動きません。



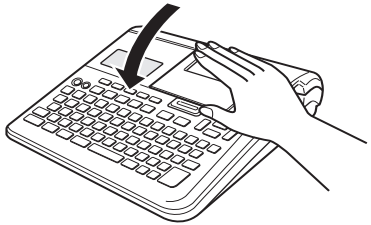
5 **テープカートリッジをセットします。**
インクリボンが引っかからないように注意しながら、テープとインクリボンがプリンターヘッドとゴムローラーの間を通るように取り付けます（下図）。テープカートリッジはカチッと音がするまで奥に押し込んでください。

重要 正しくセットしないと、リボン切れの原因となります。





6 **テープカートリッジ収納部のカバーを閉めます。**



- カバーは、カチッと音がするまでしっかりと閉めてください。
- テープカートリッジをセットしたら、テープを引き出したり押し込んだりしないでください。

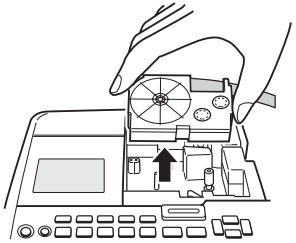
テープカートリッジを取り外す

1 **㊀を押して電源を切ります。**

2 **収納部オープンボタンを押して、テープカートリッジ収納部のカバーを開けます。**

3 テープカートリッジの左右に指を入れて、まっすぐ上に引き抜きます。

- 印刷直後は、プリンターヘッドが熱くなるため、十分に時間をおいてからテープカートリッジを取り出してください。

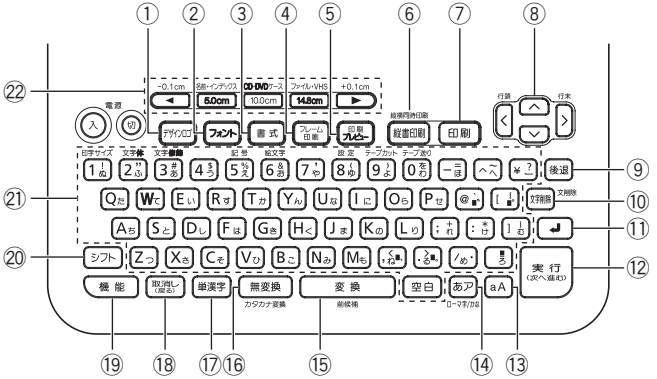


重要

- 当社では「廃棄物ゼロ」を実現するため、使用済みのテープカートリッジを回収 / 分解し、再資源化しております。
  使用済みのテープカートリッジはお買い求めの販売店までお持ちください。

キーのはたらき

ここではキーの主な使い方について説明します。



①	デザインロゴ	デザインロゴを呼び出して印刷するときに押す。
②	フォント	フォント（書体）を選ぶときに押す。
③	書式	書式を設定するときに押す。
④	フレーム印刷	フレーム印刷をするときに押す。 • フリーラベル以外では使用できません。
⑤	印刷プレビュー	印刷結果を画面で見るときに押す。
⑥	縦横同時印刷 縦書印刷	縦書き印刷をするときに押す。 • 縦横同時印刷をするときは、機能を押し、指を離してからこのキーを押す。 • フリーラベル以外では使用できません。
⑦	印刷	印刷するときに押す。
⑧		• 文字が入る位置を示した＿（カーソル）や、文字編集などのときに範囲を指定する■を動かすときに押す。 • 項目などを選択するときに押す。
⑨	後退	カーソルの前の文字を消すときに押す。
⑩	文字削除 文字削除	カーソルの上の文字を消すときに押す。 • 入力中の項目の文章をすべて消すときは、機能を押し、指を離してからこのキーを押す。
⑪	↵	改行するときに押す。
⑫	実行	操作を進めるときに押す。
⑬	aA	アルファベットの小文字と大文字を使い分けるときに押す。（49 ページ）
⑭	あア ローマ字/かな	ひらがなとカタカナを使い分けるときに押す。（50 ページ） • ローマ字入力とかな入力を切り換えるときは、機能を押し、指を離してからこのキーを押す。
⑮	変換 前候補	ひらがなを漢字などに変換するときに押す。 • 1つ前の変換に戻るとき（前候補）は、機能を押し、指を離してからこのキーを押す。

⑯	無変換 カタカナ変換	漢字に変換しないでひらがなのまま確定するときに押す。 ・入力中のひらがなをカタカナに変換するときは、機能を押し、指を離してからこのキーを押す。
⑰	単漢字	1文字ずつ漢字に変換するときに押す。
⑱	取消し	操作を戻したり、中止したりするときに押す。
⑲	機能	キーの上下または横に機能と同じ色で書かれている機能を使いたいときは、まずこのキーを押す。
⑳	シフト	・かな入力のとき、「っ」や「ょ」などの促音・拗音を入れる場合に押す。(51 ページ) ・アルファベットを入力しているとき、1 文字だけ大文字(または小文字)を入れる場合に押す。(54 ページ)
㉑	(文字キー)	文字を入れるときに押す。
㉒	(テープ長さダイレクト設定キー)	フリーラベルで長さを設定するときに押す。 ・フリーラベル以外では使用できません。

重要

機能とシフトの操作には、以下の 2 つの方法があります。

1. 機能 (シフト) を押し、指を離してから目的のキーを押す。
2. 機能 (シフト) を押しながら目的のキーを押す。

・本書の操作説明は、「機能 (シフト) を押し、指を離してから目的のキーを押す」で記載しています。

キーの表記について

●本文中では、操作手順の中で使うキー（ボタン）を1 ぬ や実行などのように表記しています。

例 1 ぬ を押したあとに続けて実行を押すときの表記

↓

1 ぬ 実行 と押します。

●本機のキーの上下または横に機能と同じ色で書かれている機能（「設定」や「カタカナ変換」など）を使うには、機能を押し、指を離してから機能と同じ色で書かれている機能名のキーを押します。

例「設定」機能を使うときの表記

↓

機能を押し、指を離してから設定 8 ゆ を押します。

●操作手順の中で、「^ v < > を押して…」「^ v を押して…」「< > を押して…」と表記されているときは、そのキーのどれかを何回か押してください。4 つまたは 2 つのキーすべてを押す必要はありません。

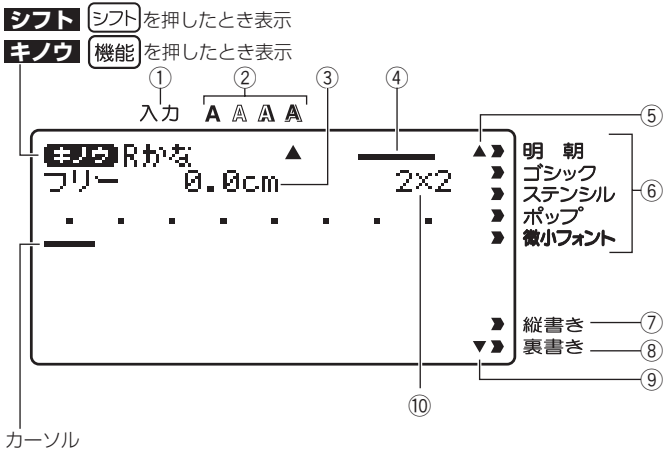
● 1 つ前の画面に戻りたいときや、操作をやり直したいときは取消しを押します。

● 取消しを何回押しても希望の画面に戻らないときは、(切)を押して一度電源を切ります。(入)を押して再び電源を入れて、はじめから操作をやり直してください。

画面について

本機の画面には、いろいろなマークが出てきます。ここではそのマークの意味やはたらきについて説明します。

• 画面の明るさを変えるときは、64 ページをご覧ください。



①	入力できる文字の種類を示す。（49 ページ）
②	文字体が何になっているか示す。（62 ページ）
③	いま作っているラベルの長さを示す。（39 ページ）
④	フリーラベルを選択したときのレイアウトを示す。（36 ページ）
⑤	いま見えている画面より上にも文字などがあることを示す。
⑥	書体（フォント）が何になっているかを示す。（60 ページ）
⑦	縦書きになっていることを示す。（36 ページ）
⑧	裏書きになっていることを示す。（36 ページ）
⑨	いま見えている画面より下にも文字などがあることを示す。
⑩	文字のサイズを示す。（42 ページ）

まずは作ってみましょう

準備ができたら、試しに「ラベルの印刷」をしてみましょう。

ラベルを印刷する

[印刷例]

営業レポート

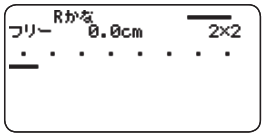
1 入を押して、電源を入れます。

・右の画面の代わりに「前回データ」を含む画面が表示されることがあります。（14 ページ）

2 ^ v < > を押して「新規」にし、実行を押します。

3 ^ v < > を押して作りたいラベルの種類を選び、実行を押します。

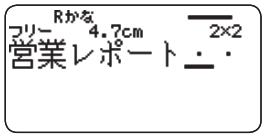
ここでは「フリーラベル」を選びます。



4 文字を入力します。

ここでは「営業レポート」と入力します。

・文字の入力方法については、24 ページをご覧ください。



■印刷結果を画面で確認する

印刷する前に、印刷結果を画面で確認することができます。テープカートリッジをセットしていないと、印刷結果を画面で確認することはできません。

1 印刷/プレビューを押します。

どのように印刷されるのか、そのイメージが画面に流れます

2 じっくりと見たい部分が流れてきたら、実行を押します。

その部分が止まります

実行を押すと、再びプレビュー画面が流れます。

・プレビュー表示を中止するときは取消しを押します。
・細い線のある文字や字画の多い漢字は正しくプレビュー表示されないことがあります。

■印刷する

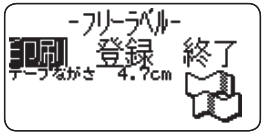
作成したラベルは簡単に印刷できます。複数枚を連続して印刷することもできます。また、テープをカットする方法も選ぶことができます。

- ご使用前に、「安全上のご注意」の「オートテープカッターに注意する」（5 ページ）を必ずご覧ください。
- ラベルの長さの表示は一応の目安です。ご使用の環境や印刷する内容によっては、実際のラベルの長さと完全には一致しません。

重要　印刷する前に、以下の点にご注意ください。

- 印刷時の注意事項（24 ページ）を必ずご覧ください。
- 「テープカートリッジがセットされていること」、「テープ出口（9 ページ）が物でふさがっていないこと」を確認してください。

1 **文字を入力したら、[実行]を押します。**



2 **印刷 になっていることを確認して、[実行]を押します。**

3 **[<][>]を押して、印刷する枚数を指定します。**
ここでは「1 枚」にします。

- [<]を押すと数字が減り、[>]を押すと数字が増えます。
- 数字を直接入力することもできます。一度に、100 枚まで指定できます。0 枚を指定することはできません。

4 **[∨]を押します。**

5 **[<][>]を押して、カットモードを指定します。**

- ラベル間の台紙を切らずに印刷するときは、「通常」を指定します。
- ラベルごとに切り離すときは、「切り離す」を指定します。
- 自己粘着テープ・布転写テープ・インスタントレタリングテープをセットしているときは、「特殊テープ」を指定します。
- 反射テープ・マグネットテープ・アイロン布テープをセットしているときは、「カットしない」を指定します。

ここでは「通常」にします。
カットモードについて詳しくは、25 ページをご覧ください。

6 **[実行]を押します。**
印刷が始まります。

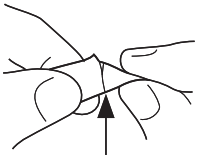
- 印刷を途中でやめるときは、[取消し]を押します。

ラベルを貼る

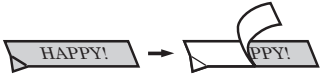
1 **必要に応じて、ハサミなどで好きな大きさ・形にします。**

2 **ラベルの裏をはがして、貼ります。**

●ハーフカット部分からはがすとき
ハーフカット部分をゆっくりとひねるようにして、テープを台紙からはがします。



●フルカットされたラベルをはがすとき
ラベルの角を折り曲げると、はがしやすくなります。



・一度貼ったラベルをはがすと、貼っていた場所にテープのノリが残ることがあります。

重要 次のようなものや場所にラベルを貼らないでください。
- 直射日光や雨が当たるもの
- 人や動物の体
- 他人の家の塀や電柱など
- 公園・駅など、公共の場所
- 電子レンジで加熱に使う容器

ラベルが貼りにくいものは
・表面がざらざらしているところ
・表面に水や油、ホコリなどが付いているところ
・特殊なプラスチック材料（シリコン系・PP 材など）

テープを空送りする

印刷する前や印刷した後に、テープを白紙で送ることができます（テープ送り）。

1 **機能** **0（テープ送り／わ）** **と押します。**
↓
テープが約 21.5mm 送られます。

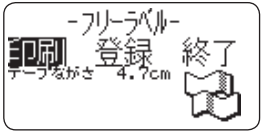
テープの余白を「送り無」にしたときは

テープの余白を「送り無」と設定したときは（38 ページ）、印刷が終わっても自動的にテープはカットされません。次の手順に従って、テープをカットしてください。

1 **機能** **9（テープカット／よ）** **と押して、テープをカットします。**

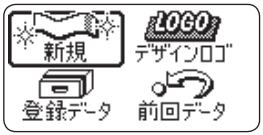
重要 テープをカットするときは、本機を傾けないでください。
また、テープを引っぱったり、カバーを開けたりしないでください。

終了する



1 上の画面が表示されているときに〈〉〉を押して **終了** にし、実行を 2 回押します。

以下の画面に戻ります。



- 「登録」については、46 ページをご覧ください。

文字の入力について

■「営業」を入力します。

ローマ字入力、またはかな入力を選ぶことができます。
ここでは、ローマ字入力を選びます。(49 ページ)

1 あアを何回か押して、画面左上に「R かな」を表示させます。
2 Eい Iに Gき Yん Oら Uな
3 変換を何回か押して、「営業」が画面に表示されたら実行を押します。

■「レポート」を入力します。

1 あアを何回か押して、画面左上に「R カナ」を表示させます。
2 Rす Eい Pせ Oら ¥ッ Tか Oら

- 誤った文字を入力したときは、文字削除 (56 ページ) や後退 (57 ページ) を押して、文字を消してから、正しい文字を入力してください。
- **文字入力方法について、詳しくは「入力・編集編」(48 ページ) をご覧ください。**

印刷時の注意事項

印刷するときには以下の点に注意してください。

重要

- 印刷中に、絶対に電源を切らないでください。
- 印刷中に、テープカートリッジ収納部のカバーを絶対に開けないでください。(9 ページ)
- 印刷中に出てきたテープは、「自動的にカットされる」または「印刷が終了する」まで触らないでください。
- 印刷の途中でテープがなくならないように十分残量のあるテープカートリッジをご使用ください。印刷の途中でテープがなくなったときは、取消しを押して印刷を中止してください。
- テープ出口の周りに、カットされたテープがたまらないようにしてください。カットされたテープがテープ出口をふさいでしまうと、テープが詰まったり、故障の原因になります。
- 1 度に印刷されるラベルの長さが極端に長い場合は、印刷できません。ラベルの長さを短くする、または、印刷枚数を減らして、印刷し直してください。

印刷とカットモード

カットモードについて（オートカッター）

複数枚のラベルを印刷するときは、ラベルとラベルの間を自動的に切り離すか切り離さないか選ぶことができます。また、テープによっては、本機のカッターでカットするとカッター部が摩耗し、故障の原因となることがありますので、注意してください。

• 下記のテープは特殊なテープです。必ず下表を確認し、「特殊テープ」または「カットしない」に設定して使用してください。

•自己粘着テープ •布転写テープ •インスタントレタリングテープ	**特殊テープ**
•マグネットテープ •反射テープ •アイロン布テープ	**カットしない**

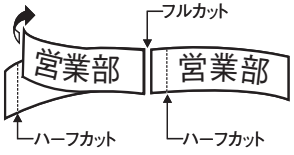
■カットのしかたについて

カットのしかたには 2 つあります。

●ハーフカット

台紙はカットしないで、シール部分だけをカットします。はがすときは、ハーフカットした部分からはがしてください。

• 「テープ幅の細い 3.5mm や 6mm テープ」や「薄いメンディングテープ」は、ハーフカットできないことがあります。



●フルカット

台紙もシールもカットします。

■４つのカットモード

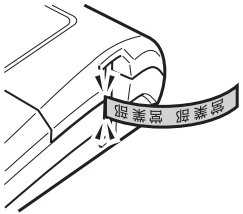
カットモードは４つあります。

• カットモードは、「印刷する」の手順 **5**（22 ページ）で設定します。
• 余白の設定によって、カットのしかたと余白部分の長さは異なります。詳しくは「カットのしかたと余白について」（27 ページ）をご覧ください。
• 書式で「余白　送り無」に設定したときは、どのカットモードを選択しても、フルカットとハーフカットはされません。（23 ページ）
• テープの長さが下記のときは、テープカットされないことがあります。印刷終了後、ハサミなどで切ってください。

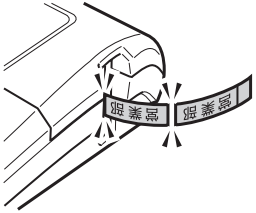
余白小	余白中	余白大
約 28mm 以下	約 35mm 以下	約 45mm 以下

●通常

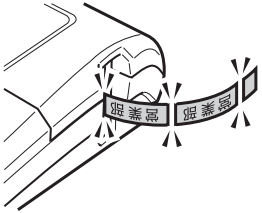
• ラベル間はハーフカットされます。台紙がつながっているので、ラベルがバラバラになることがありません。
• 先頭には余白が付き、はがしやすいようにハーフカットされます。
• すべての印刷が終了すると、フルカットされます。



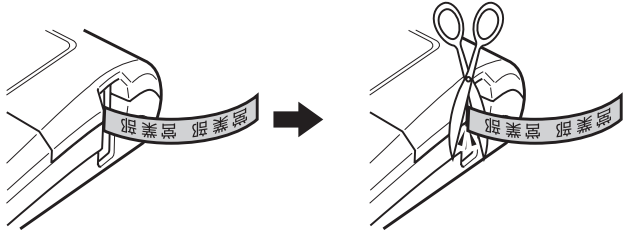
●切り離す
- ラベルごとにフルカットします。
  2 枚以上印刷するときは、カットされたラベルがテープ出口をふさがないようにご注意ください。テープ出口をふさいでしまうと、テープ詰まりや故障の原因となります。
- 各ラベルの先頭には余白が付き、はがしやすいようにハーフカットされています。



●特殊テープ
- 自己粘着テープ・布転写テープ・インスタントレタリングテープに印刷するときに設定します。
- 各ラベルごとにフルカットされます。
- 「余白　小」「余白　中」を設定してあるときは、印刷中に、余分なテープが自動的にフルカットされます。



●カットしない
- ラベル間はカットしません。
- マグネット・反射テープ・アイロン布テープに印刷するときは、必ず「カットしない」に設定してください。
- 印刷終了後、機能を押し、指を離してから0（テープ送り）を押してテープ送りをしたあと、ハサミなどでラベルをカットしてください。



反射テープ、マグネットテープ、アイロン布テープについて

反射テープ、マグネットテープ、アイロン布テープは特殊な処理をしてあるテープです。

カットするときは、フルカット / ハーフカットはしないで、下記の手順に従ってハサミなどをお使いください（アイロン布テープは、必ず、布などを切る裁ちばさみをお使いください）。

なお、本機のフルカット / ハーフカットで**反射テープ、マグネットテープ、アイロン布テープ**をカットすると、カッター部分の寿命が短くなり、ハーフカッター部分が破損することがあります。ご注意ください。

1 書式の全文書式で、余白を「送り無」にする（38 ページ）またはカットモードで「カットしない」にする
2 印刷する
3 機能 0（テープ送り）と押して、テープ送りをする
4 **反射テープ、マグネットテープ**または**アイロン布テープ**を取り出し、ハサミなどを使ってカットする
- ご使用後は、必ず本機から取り出して保管してください。

カットのしかたと余白について

カットモードと余白の設定によって、カットのしかた（フルカット／ハーフカット）と余白の長さは異なります。

カットモード		通常			切り離す			特殊テープ			カットしない		
カットのタイミング ＼ 余白		先頭の余分な部分のカット	1枚終了ごとのラベルのカット	印刷終了時のラベルのカット	先頭の余分な部分のカット	1枚終了ごとのラベルのカット	印刷終了時のラベルのカット	先頭の余分な部分のカット	1枚終了ごとのラベルのカット	印刷終了時のラベルのカット	先頭の余分な部分のカット	1枚終了ごとのラベルのカット	印刷終了時のラベルのカット
余白小	カット	ハーフカット	ハーフカット	フルカット	ハーフカット	フルカット	フルカット	フルカット	フルカット	フルカット	無し	無し	無し
	余白	16.5㎜	3㎜	3㎜	16.5㎜※1 5㎜※2	3㎜	3㎜	21.5㎜	3㎜	3㎜	21.5㎜	3㎜	3㎜
余白中	カット	ハーフカット	ハーフカット	フルカット	ハーフカット	フルカット	フルカット	フルカット	フルカット	フルカット	無し	無し	無し
	余白	9.5㎜	10㎜	10㎜	9.5㎜※1 5㎜※2	10㎜	10㎜	21.5㎜	10㎜	10㎜	21.5㎜	10㎜	10㎜
余白大	カット	ハーフカット	ハーフカット	フルカット	ハーフカット	フルカット	フルカット	無し	フルカット	フルカット	無し	無し	無し
	余白	5㎜	19.5㎜	19.5㎜	5㎜※1 5㎜※2	19.5㎜	19.5㎜	–	19.5㎜	19.5㎜	–	19.5㎜	19.5㎜
送り無	カット	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
	余白	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

※1：1枚目の印刷のとき

※2：2枚目以降の印刷のとき

ラベル作成編

ラベル作成の流れ

ラベルを印刷するときは、以下の手順で操作してください。

操作の流れ

1 ラベルの種類を選ぶ
フリーラベル..... 35 ページ
用途別ラベル..... 29 ページ
ナンバリング..... 31 ページ

登録してあるデータを呼び出して使うときは（47 ページ）

前回作成したデータを使うときは（14 ページ）

2 文字を入力する（49 ページ）

3 文字を修飾する
書体（フォント）を変える（60 ページ）、文字を目立たせる（文字体）（62 ページ）

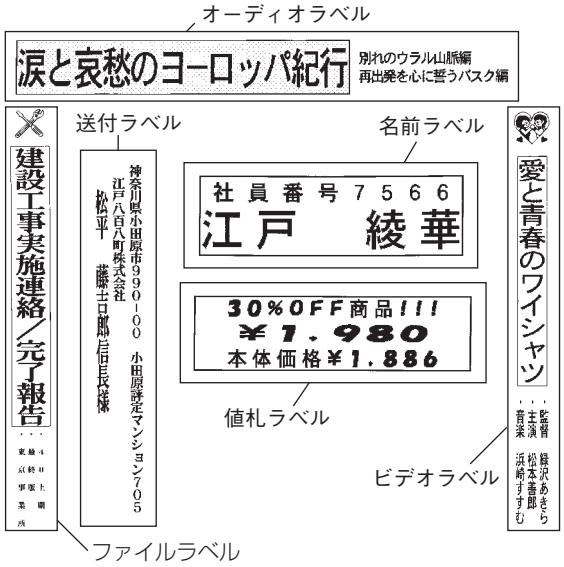
ラベルを印刷（22 ページ）・登録（46 ページ）・終了する

フォーマットを選んで作る（用途別ラベル）

本機には、豊富なラベルのフォーマットが内蔵されており、用途に応じたラベルが簡単に作れます。

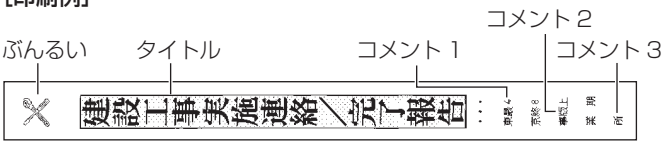
・ここで紹介するラベルは、本機で作成できるラベルの一例です。

用途別ラベル



・ビデオラベル・オーディオラベル・名前ラベル・送付ラベル・ファイルラベル・値札ラベルがあります。用途に応じて選択してください。

[印刷例]



（9mm 幅テープ / ファイル / ファイル背 / 小 3）

重要 79 ページをご覧になりフォーマットに適した幅のテープカートリッジをセットしてください。

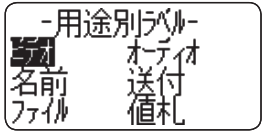
フォーマットを選ぶ

1 (入)を押して、電源を入れます。

・ご使用の状況によっては、右の画面の代わりに「前回データ」を含む画面が表示されます（14 ページ）。

2 (∧)(∨)(<)(>)を押して「新規」を選び、(実行)を押します。

3 (∧)(∨)(<)(>)を押して「用途別ラベル」を選び、(実行)を押します。

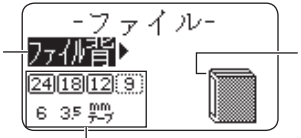


4 ^ v < > を押して作成するラベルの種類を選び、実行を押します。

ここでは「ファイル」を選びます。
フォーマット選択画面が表示されます。

フォーマット選択画面について

ここでは、例として、「ファイル背」の画面を説明します。

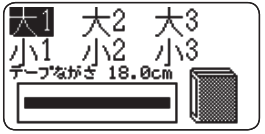


ラベルの種類を示します。
ラベルを貼る位置を示します。
対応するテープ幅を示します。

9 18 ･･･使用できるテープ幅は、実線または点線で囲まれます。
18 ･･･････最も適したテープ幅は、実線で囲まれます。
6 ･･･････使用できないテープ幅は、囲まれません。

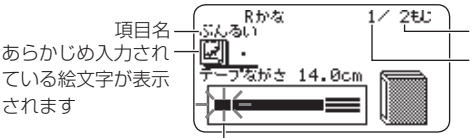
5 < > を押して、「ファイル」ラベルの種類を選び、実行を押します。

ここでは「ファイル背」を選びます。



6 ^ v < > を押してフォーマットを選び、実行を押します。

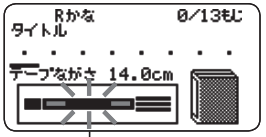
詳しくは「用途別ラベルフォーマット一覧」（79 ページ）をご覧ください。
ここでは「小 3」を選びます。
文字入力画面が表示されます。



項目名
あらかじめ入力されている絵文字が表示されます
入力できる文字数
現在入力されている文字数
点滅しています
（この部分の入力ができるという意味です）

7 画面の絵文字を必要に応じて変更し、実行を押します。

- 選んだフォーマットの種類や項目によって、絵文字が入力されていたり、入力されていなかったりします。
- 他の絵文字に変えるときは、56 ページをご覧ください。



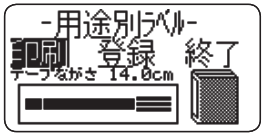
点滅の場所が変わります

8 文字を入力し、実行を押します。

ここでは「タイトル」「コメント 1」「コメント 2」「コメント 3」に入力します。

- 枠が付けられるフォーマットの場合は、機能を押し指を離してから文字修飾 3 #あを押し、枠付「あり／なし」のどちらかを選ぶことができます。

これでラベルデータが完成しました。



- ラベルデータを印刷するときは→ 22 ページ
- ラベルデータを登録するときは→ 46 ページ

印刷の書式を設定したい

文字の入力中に、お好みで印刷の書式を設定することができます。

- 印刷方向の「横書き／縦書き」を設定する
- 「裏書き」印刷の「する／しない」を設定する

上記の設定をするには、文字入力中に書式を押して、書式設定画面を表示させ、設定をします。

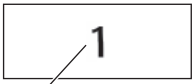
通し番号のついたラベルを作る（ナンバリング）

ページ番号や通し番号がついたラベルを作る（連番印刷）ことができます。

重要 3.5mm 幅のテープカートリッジは使用できません。

ナンバリングの種類

- フォーマット 1



ナンバー

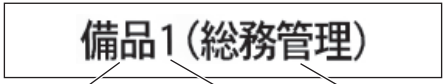
- フォーマット 2

コメント（50 文字まで） ナンバー

- フォーマット 3

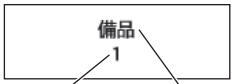
ナンバー コメント（50 文字まで）

- フォーマット 4



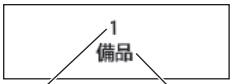
コメント1（50 文字まで） ナンバー コメント2（50 文字まで）

- フォーマット 5



ナンバー コメント（50 文字まで）

- フォーマット 6



ナンバー コメント（50 文字まで）

- 印刷するたびに、“ナンバー”が一つずつ繰り上がっていきます。
- 上の例は 18mm 幅テープで作成しました。

[印刷例]

備品No.15（総務管理）
備品No.16（総務管理）
備品No.17（総務管理）

「備品 No.15（総務管理）」～「備品 No.17（総務管理）」のラベルを印刷します。

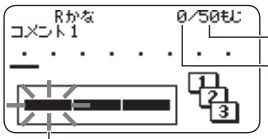
重要 ナンバリング印刷では、指定枚数分を連続して印刷します。印刷の途中でテープがなくならないように、十分残量のあるテープカートリッジをご使用ください。印刷の途中でテープがなくなってしまったときは、取消しを押して印刷を中止してください。

1 入を押して、電源を入れます。

2 ^ v < >を押して「新規」を選び、実行を押します。

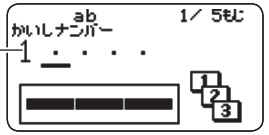
3 ^ v < >を押して「ナンバリング」を選び、実行を押します。

4 ^ v < >を押してフォーマットを選び、実行を押します。
ここでは「4」を選びます。



入力できる文字数
現在入力されている文字数
点滅しています
（この部分の入力ができるという意味です）

5 「コメント 1」の文字を入力し、実行を押します。
ここでは「備品」と入力します。

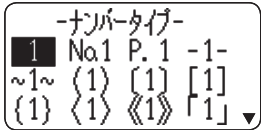


先頭の数字が表示されます

6 ナンバリングの先頭になる数字に変更し、実行を押します。
ここでは、「No.15」～「No.17」のラベルを作るので、「15」を入力します。

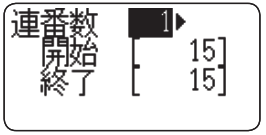
- 先頭になる数字を変更するときは、数字を削除して入力し直してください。5 桁まで入力できます。

7 「コメント 2」の文字を入力し、実行を押します。
ここでは「（総務管理）」と入力します。



8 ^ v < >を押してナンバリングの形を選び、実行を押します。
ここでは「No.1」を選びます。

9 < >で印刷を選び、実行を押します。



重要 印刷するときは、24 ページの注意事項をご覧ください。

10 ＜＞を押して連番として印刷する枚数を設定し、連番の開始と終了の番号を確認してから実行を押します。

ここでは、15、16、17 番を印刷するので、「3」を設定します。

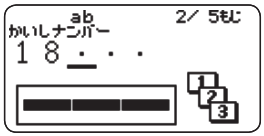
- 1 ～ 100 までを入力できます。
- 直接数字を入力することもできます。

11 ＜＞を押してカットモードを設定し、実行を押します。

- カットモードについて詳しくは、25 ページをご覧ください。

印刷が開始されます。終了すると、右の画面が表示されます。

- ナンバー「99999」の次は、「00000」が印刷されます。
- 「長さオーバー　印刷できません」「長さが短すぎてカットできませんがよろしいですか?」と表示されたときは、72 ページをご覧ください。



表示される番号は、作成するラベルによって異なります。

重要 ・テープ出口の周りに、カットされたテープがたまらないようにしてください。カットされたテープが出口をふさいでしまうと、テープが詰まったり、故障の原因になります。

- ラベルデータを登録するときは→ 46 ページ

印刷の書式を設定したい

文字の入力中に、お好みで印刷の書式を設定することができます。

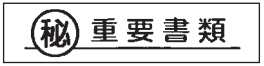
- 印刷方向の「横書き／縦書き」を設定する
- 「裏書き」印刷の「する／しない」を設定する
- 「余白」の設定をする

上記の設定をするには、文字入力中に書式を押して、書式設定画面を表示させ、設定をします。

ロゴ入りのラベルを印刷する（デザインロゴ）

オフィス、工場・建設などの現場、家庭などでよく使う表現を選ぶだけで、イラストや文字の入ったアテンション効果に優れたラベルを作ることができます。

[印刷例]



- 印刷可能なデザインロゴについては、デザインロゴ一覧（83 ページ）をご覧ください。
- デザインロゴを印刷できるのは、12mm、18mm、24mm 幅のテープです。

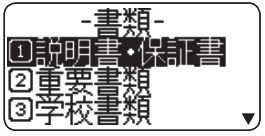
1 入を押して、電源を入れます。

2 ＜＞を押して「デザインロゴ」を選び、実行を押します。

- 上記の操作の代わりにアクセントを押しても同じ画面に進めます。

3 ＜＞を押してグループを選び、実行を押します。

ここでは「書類」を選びます。



4 ＜＞でロゴデータを選びます。

ここでは「2 重要書類」を選びます。

5 印刷/プレビューを押すと、選択しているロゴのデザインを確認することができます。
- このとき表示されるのは「大きさ　中」で印刷した場合のデザインです。

6 じっくりと見たい部分が流れてきたら、実行を押して画面を停止させます。
実行を押すと、再びプレビュー画面が流れます。
- プレビュー表示を中止するときは、取消しを押します。

7 実行を押します。

8 ＜＞を押して、印刷する大きさを選びます。
- 大きさは「小」「中」「大」の3種類から選べます。
- 印刷したときのデザインロゴの大きさは下の表のとおりです。
- 「裏書き」にしたいときには、∨を押して、＜＞で**する**を選びます。

9 実行を押します。

10 ＜＞を押して**印刷**を選び、実行を押します。

重要 印刷するときは、24 ページの注意事項をご覧ください。

11 ∧∨＜＞で印刷枚数、カットモードを指定します。
- カットモードについて（25 ページ）

12 実行を押します。
- 印刷が開始されます。

デザインロゴ印刷時の大きさ

（サイズはいずれも 縦 × 横 で記載）

	24mm ／ 18mm 幅			12mm 幅			9mm 幅以下
	倍率（%）		データの大きさ	倍率（%）		データの大きさ	
	縦	横		縦	横		
小	120	90	12 × 41mm	100	80	10 × 36mm	（不可）
中	120	120	12 × 54mm	100	100	10 × 45mm	（不可）
大	120	150	12 × 68mm	100	120	10 × 54mm	（不可）

自由に入力して作る（フリーラベル）

ここでは自由に入力してラベルを作る（フリーラベル）方法について説明します。

操作を簡単に説明しますと、以下のようになります。

1 入を押して、電源を入れます。

2 ^ v < > を押して「新規」にし、実行を押します。

3 ^ v < > を押して「フリーラベル」を選び、実行を押します。

4 自由に文字を入力します。

- フリーラベルの作り方について詳しくは 21 ページをご覧ください。

2 行以上のラベルを作る

2 行以上の文章を含むラベルを作ることができます。
作れる行数は、セットしてあるテープの幅によって違います。

重要 3.5mm 幅テープでは、2 行以上のラベルは作れません。

テープの幅	最大行数
3.5mm	1 行
6mm	2 行
9mm	3 行

テープの幅	最大行数
12mm	5 行
18mm	6 行
24mm	6 行

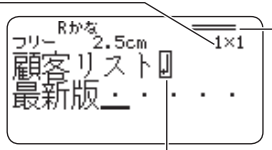
- テープの幅と行数に合わせて、自動的に文字の大きさは変わります。（ジャストフィット印刷）
- 文字の大きさを自由に決めた場合（42 ページ）も、文字の大きさは行数に合わせて自動的に変わります。

［印刷例］ 顧客リスト
最新版 （18mm 幅テープ）

1 1 行目を入力します。
ここでは「顧客リスト」と入力します。

2 ↵ を押します。

3 2行目を入力します。
ここでは「最新版」と入力します。



文字の大きさが行数に合わせて自動的に変わります。

改行マークが入ります（画面だけの印なので印刷されません）

作っているラベルのレイアウト（イメージャー表示）線の数は行数を表わし、線の太さは文字の大きさをイメージで表します。

- 文字を全部入力した後に、行を変えることもできます。行を変えたい位置で、[↵]を押します。
- 改行を取り消すときは、[文字削除]を押してマークを削除します。[後退]を押しても「⏎」マークを削除することはできません。
- イメージャー表示は、微小フォントでの印刷のときは「5/6」というような表示になります。これは、「行数は6行で、カーソルが合っているのは5行目」という意味です。
  微小フォントでの印刷について→43ページ。
- セットされているテープ幅に合わない行数にすると、「行数オーバー　印刷できません」と表示され、印刷することはできません。そのときは行数を減らしてください。
- ラベルデータを印刷するときは→22ページ
- ラベルデータを登録するときは→46ページ

こんなラベルを作るには？

顧客リスト最新版⏎
営業部

→

顧客リスト最新版
営業部

文字の大きさを決めます
（42ページ）

ラベルの書式を決める

ラベルの長さ·文字間隔·文字のバランスなど、ラベルをどのようなルール（書式）で作るのかを決めます。

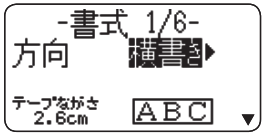
■設定できる内容

方向	文字の向きを横書きにするか、縦書きにするかを決めます。 方向　方向
文字割付	文字のバランスを決めます。　→41ページ参照
文字間隔	文字と文字のピッチ（間隔）を決めます。 文字間隔　文 字 間 隔
裏書き	裏書 ・布転写テープカートリッジ（別売）を使用してハンカチやTシャツなどにアイロンプリントするときに設定します。 アイロン布テープ（別売）を使用してアイロンプリントするときには、裏書きの設定は必要ありません。 ・テープ色が透明なテープカートリッジ（別売）を使用してガラスなど透明なものに裏から貼るときに設定します。
余白	ラベルの前後につくスペースの長さを選びます。 →38ページ参照
テープ長	ラベル全体の長さを自由に決めます。　→39ページ参照

■設定する（フリーラベルの場合）

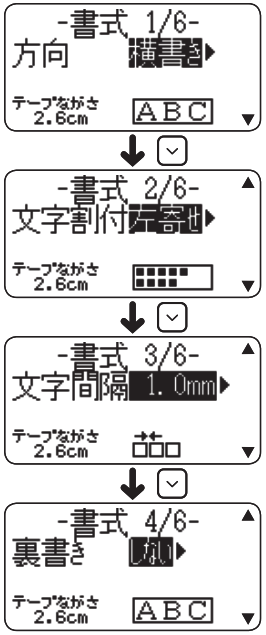
1 **文章を入力します。**

2 **書式を押します。**

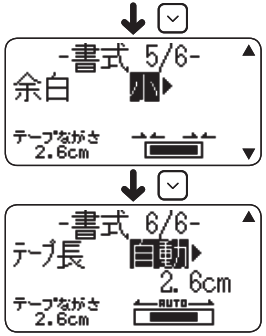


3 **各項目を設定します。**

- ∧∨を押して設定項目を選びます。
- <>を押して希望の項目を表示させます。



設定項目	内　容
方向	文字を縦書きにするか横書きにするかを選ぶ
文字割付	文字のバランス（左寄せ / 均等 / 中寄せ / 右寄せ）を設定する ➔41 ページ参照
文字間隔	文字と文字の間隔（0.0 ～ 31.9mm）を指定する（<>を押すと間隔が変わり、それに合わせてテープ長さの数値も変わる） ・「文字割付」を「均等」、「テープ長」を「固定」とした場合は、文字間隔の指定はできません。
裏書き	文字を裏書きで印刷するかしないかを選ぶ。裏書きにしないときは「しない」を選ぶ
余白	ラベルの前後につくスペースの長さを選ぶ
テープ長	・自動：文字数に合わせて自動的にラベルの長さを調節する ・ラベル全体の長さを任意に設定するときは、<>を押して「固定」を選ぶ ➔39 ページ



4 **各項目を設定したら、実行を押します。**

■設定する（用途別ラベル、ナンバリングの場合）

1 **文章を入力します。**

2 **書式を押します。**

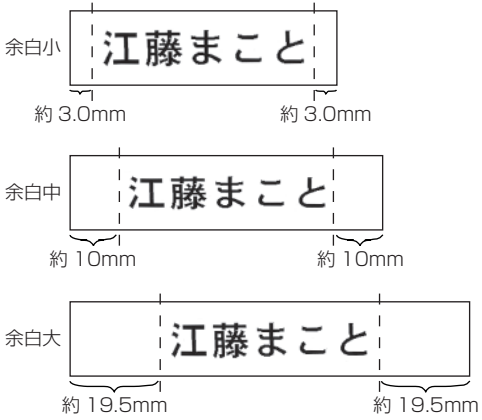
3 **<>または<>で、「方向」「裏書き」または「余白」を選び、実行を押します。**

- 用途別ラベルでは「余白」を選ぶことはできません。

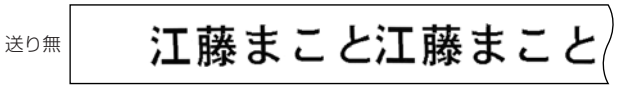
4 **<>または<>で、お好みの項目を選び実行を押します。**

余白について

ラベルの前後に付くスペースを余白といいます。
次の 3 種類の余白を選べます。



重要 テープの長さが短い（余白小のとき：約 28mm 以下、余白中のとき:約 35mm 以下、余白大のとき:約 45mm 以下）場合には、余白カットをしないことがあります。印刷が終わった後で、ハサミなどで余白をカットしてください。



- 「送り無」と設定し、連続して印刷すると、ラベルとラベルを密着させて印刷することができます。
- 「送り無」と設定したときは、テープは自動的にはカットされません。テープをカットするときは、機能を押し、指を離してからテープカット 9 よを押してください。先頭のラベル余白は、ハサミなどでカットしてください。

ラベルの長さを自由に決める

ラベルは文字の大きさや文字数に合わせて最適な長さで印刷されます。ここではラベルの長さを自由に設定する方法を説明します。

ラベルの長さを決める方法には、次の 2 つがあります。

- ラベル全体の長さを自由に設定する（テープ長固定）。
- CD・DVD・ VHS 用のラベルなど、よく作るラベルの長さを設定する（テープ長さダイレクト設定キー）。
  - ラベルの長さの表示は一応の目安です。ご使用の環境や印刷する内容によっては、実際のラベルの長さと完全には一致しません。

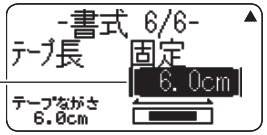
ラベル全体の長さを自由に設定する（テープ長固定）

1 文字を入力します。

2 書式を押します。

3 ^ v を押して、「テープ長」を画面に表示させます。

4 < > を押して、「テープ長 固定」にし v を押します。

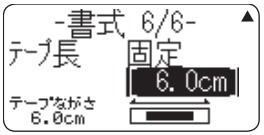


数値が反転します

5 数値キーまたは < （減）・ > （増）を押して、ラベルの長さを設定します。

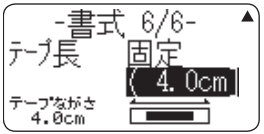
- 直接数字を入力することもできます。

- テープ長さと入力されている文字により、次のようになります。



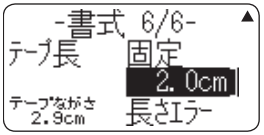
[6.0cm] ↑ 指定通りに印刷

営業部



(4.0cm] ↑ 文字を横方向に縮めて指定通りに印刷

営業部



2.0cm] ↑ 指定した長さより長く印刷

営業部

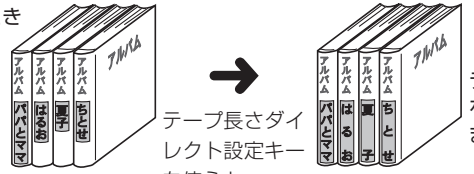
* 文字が印刷方向に 50%縮小されて印刷されます。また、印刷されたテープは指定より長くなります。

6 実行を押します。

CD・DVD・VHS 用のラベルなどを簡単に設定する（テープ長さダイレクト設定キー）

テープ長さダイレクト設定キーを使えば、CD や DVD のケース、VHS ビデオテープ用のラベルなど、よく作成するラベルの長さを簡単に設定できます。また、同じ長さを簡単に設定できるので、長さのそろった複数のラベルも簡単に作成できます。

長さを設定しないとき



テープ長さダイレクト設定キーを使うと…

ラベルの長さを同じにできます！

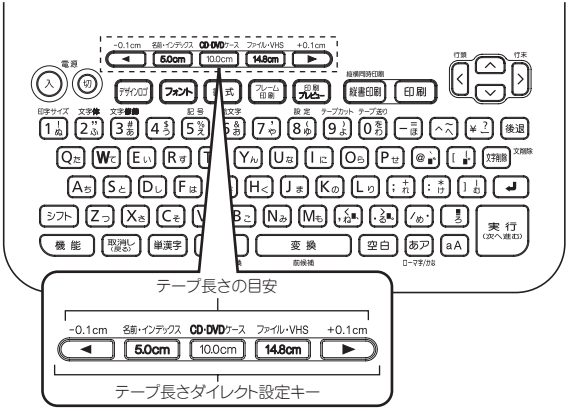
重要!!

- テープ長さダイレクト設定キーで設定した長さは、テープ長固定と連動します。また、テープ長さダイレクト設定キーで設定すると、「文字割付：均等」に設定されます。
- フリーラベル以外では、テープ長さダイレクト設定キーは無効となります。

設定できる長さ

テープ長さダイレクト設定キー	適したもの
14.8cm	VHS ビデオテープの背ラベル・ペーパーファイル・バインダーなど
10.0cm	CD・DVD ケースなど
5.0cm	名前シール・インデックスなど

- 1mm 単位で長さを調整することもできます。



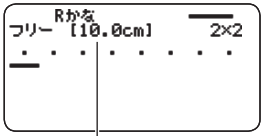
設定する

[例] CD・DVD ケース用のラベルの長さを設定する

1 **10.0cm を押します。**

+0.1cm ► を押すと長くなり、−0.1cm ◄ を押すと短くなります。

- 文字入力はラベルの長さを設定する前でも設定したあとでも構いません。



長さが 10.0cm に変わります。

文章のバランスを整える（割付）

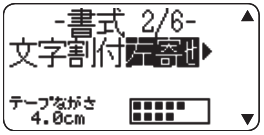
文字や文章のバランスを整えることができます。

左寄せ	江藤まこと
均等	江　藤　ま　こ　と
中寄せ	江藤まこと
右寄せ	江藤まこと

1 文字を入力します。

2 書式を押します。

3 ^ v を押して、「文字割付」の設定画面にします。

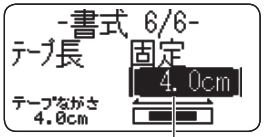


4 < > を押して、希望の割付の種類を表示させます。

< > を押すたびに、**均等** **中寄せ** **右寄せ** **左寄せ** と割付の種類が変わります。

5 ^ v を押して、「テープ長」を画面に表示させます。

6 < > を押して、「テープ長　**固定**」にし、v を押します。



数値が反転します

7 数値キー、または < （減）・ > （増）を押して、希望の数字（ラベルの長さ）にし、実行を押します。

元の長さより長い数値にします。

2 行以上の文章のときは、「テープ長　自動」を選んでも、割り付けすることができます。そのときは次のように文字数の少ない方が割付の対象になります。

左寄せ	中寄せ	右寄せ	均等
下期 販促資料①	下期 販促資料①	下期 販促資料①	下　期 販促資料①

文字の大きさを決める

ラベルを作ると、最適な文字サイズで印刷されます。これは、セットされているテープの幅と文章の行数に合わせて、最適な文字サイズを自動的に設定しているためです**（ジャストフィット印刷）**。
ここではジャストフィット印刷ではなく、自由に文字の大きさを決める方法を説明します。

文字単位で「1 × 1」～「4 × 4」倍まで自由に文字サイズを選択できます。テープの幅によって、印刷できる文字サイズの最大値（縦方向）は異なります（テープ幅と行数・倍率一覧 82 ページ）。

1 × 1

禁煙

2 × 3

禁煙

4 × 4

禁煙

- 縦書きと横書きとでは、印刷結果が異なる場合があります。例えば、1 × 2 と指定すると、横書きでは横長に、縦書きでは縦長に印刷されます（上の印刷例はすべて横書きで作成しています）。

1 × 2（横書き）　　1 × 2（縦書き）

終日禁煙　　終日禁煙

［例］「終日禁煙」の「終日」を 1 × 3 にする

1 **文字を入力します。**

2 **機能を押し、指を離してから 1 ぬ（印字サイズ）を押します。**

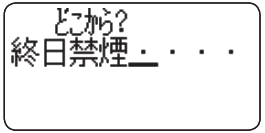
3 **∧ ∨を押して、「縦」の倍率を設定します。**
ここでは縦倍率を「1」にします。
- 直接数字を入力することもできます。
- 不適切な倍率は入力できません。

4 **›を押して、「横」の倍率数値を反転させます。**

- 数字を入力したときは、自動的に「横」の倍率数値が反転します。

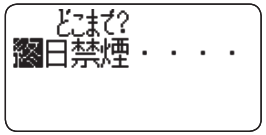
5 **∧ ∨を押して「横」の倍率を設定し、実行を押します。**

ここでは横倍率を「3」にします。



6 〈〉を押して大きさを変える最初の文字にカーソルを合わせ、実行を押します。

ここでは「終」を指定します。

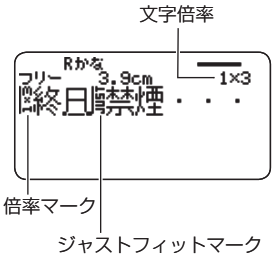


7 〈〉を押して大きさを変える最後の文字を選び、実行を押します。

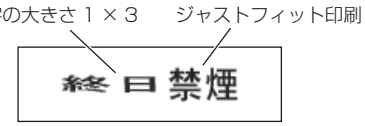
ここでは 終日 にします。

文字倍率：カーソルが合っている文字の大きさを表します。
倍率マーク：印刷される文字の大きさを表します。

ジャストフィットマーク：
自動的に付きます。このマークより後ろの文字はジャストフィット印刷に従った大きさで印刷されます。

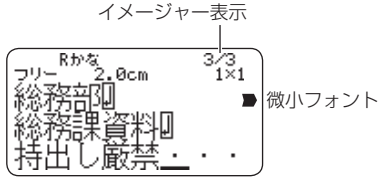


- 倍率マークやジャストフィットマークは画面には表示されますが、印刷されません。
- 文字サイズの指定を取り消すときは、倍率マークを文字削除で削除します。
- 倍率マークを削除した場合、文字サイズはテープ幅や入力文字の行数に合わせて自動設定されます。
  ただし、削除した倍率マークよりも左側に倍率の指定があるときは、その倍率になります。



微小フォントについて

- ●行数（入力した行数または選んだフォーマットの行数）と、テープ幅によって、「微小フォント」となります。
- ●このとき、画面右の「▶ 微小フォント」が点灯します。
- ●フリーラベルでは、分数でイメージャー表示されます。



- イメージャー表示については、「2 行以上のラベルを作る」の手順 **3**（36 ページ）をご覧ください。

- ●微小フォントでは、次のような特徴があります。
  - フォントの設定は、無効です（すべて同じフォントで印刷されます）。
  - 文字体または文字修飾を設定すると、きれいに印刷できないことがあります。
  - 絵文字は、きれいに印刷できないことがあります。

フレームを付ける

フリーラベルの文章にいろいろなフレームを付けることができます。
フレームの一覧は 78 ページをご覧ください。

重要 3.5mm 幅テープにフレームを付けることはできません。

[印刷例]

（18mm 幅テープ／フレーム番号= 52）

1 文字を入力します。

2 フレーム印刷 を押します。

3 ∧ ∨ ‹ › を押して使うフレームを選び、実行 を押します。
ここでは を選びます。

4 ‹ › で **印刷** を選び、実行 を押します。

重要 印刷するときは、24 ページの注意事項をご覧ください。

5 数字キー（または ‹ ›）を押して印刷枚数を設定し ∨ を押します。
1 ～ 100 枚まで設定できます。

6 ‹ › を押してカットモードを設定し実行 を押します。
印刷が開始されます。
- カットモードについて（25 ページ）
- 「文字修飾」の指定は無効になります。

フレーム印刷できる行数

テープ幅によって、フレーム印刷できる行数は異なります。

	24/18mm 幅	12mm 幅	9mm 幅	6mm 幅
フレーム印刷できる行数	4 行以内	3 行以内	2 行以内	1 行

縦書きのラベルを作る

フリーラベルの入力中、または入力後の確認画面（22 ページの手順**1**の画面）表示中に縦書印刷を押すだけで、簡単に縦書きのラベルを印刷することができます。また、縦書きと横書きのラベルを一度に印刷することもできます。

縦書印刷

縦横同時印刷

縦書き（1 枚目）、横書き（2 枚目）がセットで印刷されます。

・フリーラベル以外では、縦書印刷や機能 縦横同時印刷 縦書印刷は無効となります。フリーラベル以外で縦書きのラベルを作成するときは、書式設定画面（37 ページ）で「縦書き」を設定してください。

1 **文字を入力します。**

2 **縦書印刷を押します。**
縦書きと横書きのラベルを一度に印刷するときは、機能を押し、指を離してから縦横同時印刷 縦書印刷を押します。

重要 印刷するときは、24 ページの注意事項をご覧ください。

3 **数字キー（または〈〉）を押して印刷枚数を設定し、∨を押します。**
1 ～ 100 枚まで設定できます。

4 **〈〉を押してカットモードを設定し、実行を押します。**
印刷が開始されます。

・カットモードについて（25 ページ）

■「平成 20 年 12 月」、「'08 年 12 月」などのラベルの作り方

[印刷例]

・「20」や「'08」などは、記号一覧（75 ページ）の記号を使用すると、上の例のようなラベルを作ることができます。記号の入力方法については、55 ページをご覧ください。

作成したデータを登録する・呼び出す

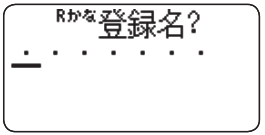
作成したデータをメモリーに記憶させておくことができます。記憶させることを**登録**といいます。
登録しておけば、いつでも呼び出して印刷したり、また内容を修正して違うデータを作ることができます。

データを登録する

データに名前を付けて登録します。
データは 10 件まで登録できます。

文字の入力が完了すると右の画面が表示されます。

1 ‹ › **を押して** 登録 **を選び、** 実行 **を押します。**



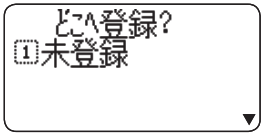
2 **登録名を入力し、** 実行 **を押します。**

登録名は 7 文字まで入力できます。

- 登録名はデータを呼び出すときに使います。

3 ^ ˇ **を押して登録する場所を選びます。**

- まだデータが登録されていない場所は、「未登録」と表示されます。



4 実行 **を押します。**

- 「よろしいですか？」と表示されます。

5 実行 **を押します。**

「登録完了」と表示され、最初の画面に戻ります。

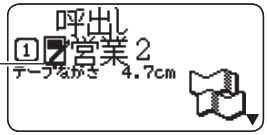
登録したデータを呼び出す

登録したデータは、作成方法画面（21 ページの**1** の画面）から呼び出します。

1 ^ v < > を押して「登録データ」を選び、実行を押します。

2 < > を押して **呼出し** を選び、実行を押します。

登録名が表示されます



3 ^ v を押して呼び出したいデータの登録名を探し、実行を押します。

データが呼び出されます。
必要に応じて、修正・印刷してください。

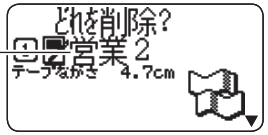
登録したデータを削除する

登録したデータは、作成方法画面（21 ページの**1** の画面）から削除することができます。

1 ^ v < > を押して「登録データ」を選び、実行を押します。

2 < > を押して **削除** を選び、実行を押します。

登録名が表示されます



3 ^ v を押して削除したいデータの登録名を探し、実行を押します。
「よろしいですか？」と表示されます。

4 実行を押します。

- 手順**1** の画面が表示されます。
- データ削除の操作をやめるときは取消しを押します。

入力・編集編

文字の入力や編集についての基本的な説明をします。また、文字修飾の指定についても説明しています。

カーソルのはたらきと動かし方

画面上で点滅している**_**を**カーソル**といいます。
カーソルとは、文字を入れる位置を示した目印のことです。

文字キーを押すと、カーソルの位置に文字が入ります。

‹	左にカーソルが移動する	^	上にカーソルが移動する
›	右にカーソルが移動する	v	下にカーソルが移動する
機能を押し、指を離してから ‹ 行頭 を押す	行の先頭にカーソルが移動する	機能を押し、指を離してから › 行末 を押す	行の最後にカーソルが移動する
機能を押し、指を離してから ^ を押す	文の先頭にカーソルが移動する※	機能を押し、指を離してから v を押す	文の最後にカーソルが移動する※

※フリーラベルでのみ有効です。

スクロールとは
画面にかくれている文字を見るためには、‹ › を押して、かくれている部分にカーソルを動かします。これを**スクロール**といいます。
（‹ › を押した方向に文字がないときは、カーソルは動きません。）

ローマ字入力？それともかな入力？

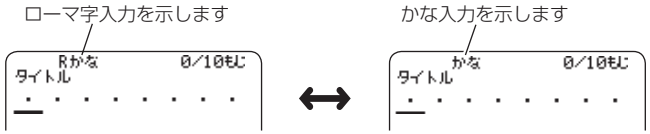
キーを押して文字を画面に表示させることを、**入力**といいます。
文字を入力する方法には、ローマ字入力とかな入力があります。

- **ローマ字入力とは…**
  アルファベットを使ったローマ字よみでひらがななどを入力する方法です。
- **かな入力とは…**
  直接ひらがななどを入力する方法です。

購入後はじめて使うときや、メモリーの初期化をした後では、ローマ字入力の状態になっています。

ローマ字入力とかな入力を切り換える

機能を押し、指を離してからあア（ローマ字/かな）を押す



- 「ab」「AB」が画面左上に表示されているときは、まずあア（ローマ字/かな）を押して、「R かな」または「かな」を表示させます。

「設定」で切り換えるには

1 機能を押し、指を離してから8（設定）ゆを押します。

2 ^ v を押して「入力設定」を選び、実行を押します。

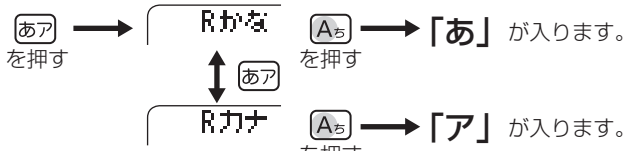
3 ^ v < > を押して「かな」または「ローマ字」を選び、実行を押します。

入力する文字の切り替え方法

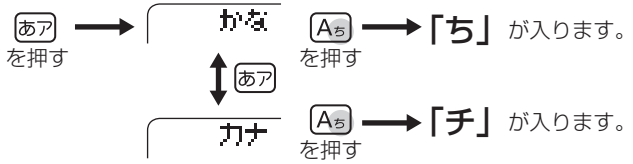
文字キーは、1 つで数種類の文字が入力できるようになっています。
あアや aA を押して、ひらがな・カタカナ・アルファベット・記号が入力できるように、切り換えます。
ここではAちを例にとって、説明します。

ひらがな・カタカナの入力

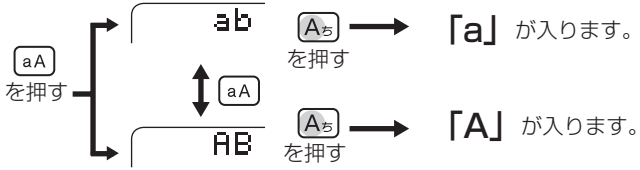
■ローマ字入力の場合



■かな入力の場合



アルファベット（大文字・小文字）の入力



ひらがな・カタカナの入力

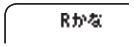
ここではローマ字入力で説明します。

ひらがなの入力

［例］ さくら

1 あアを何回か押して、画面左上に「R かな」を表示させます。

・かな入力のときは、「かな」を表示させます。（49 ページ）



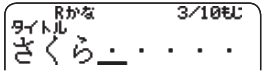
2 Sと Aち Kの Uな Rす Aちと押します。

・かな入力のときは、Xさ Hく Oらと押します。

ひらがなを入力している最中は、
■ が文字に重なっています

3 無変換または実行を押します。

「さくら」が確定します。



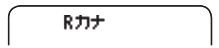
・「無変換」とは、漢字に変換しないでひらがなのまま確定するという意味です。

カタカナの入力

［例］ サクラ

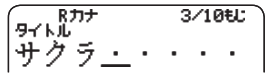
1 あアを何回か押して、画面左上に「Rカナ」を表示させます。

・かな入力のときは、「カナ」を表示させます。（49 ページ）



2 Sと Aち Kの Uな Rす Aちと押します。

・かな入力のときは、Xさ Hく Oらと押します。



カタカナを入力すると、そのまま確定されます。

ひらがなで文字を入力して、カタカナに変換する（カタカナ変換）

例 サクラ

① ひらがなで「さくら」と入力します。

② さくらとなっているときに、機能を押し、指を離してから無変換を押します。

さくら（カタカナ変換）が「サクラ」に確定されます。

いろいろな文字の入力方法

	例	ローマ字入力	かな入力
促音	いった	I に Tか Tか Aち	Eぃ シフト Zっ Qた *
拗音	きょう	Kの Yん Oら Uな	Gき シフト 9ょ 4ろう *
濁音	ぼく	Bこ Oら Kの Uな	−ほ @゛ Hく
半濁音	ぱぱ	Pせ Aち Pせ Aち	Fは [゜ Fは [゜
句点	。	.る。	シフト .る。
読点	、	,ね、	シフト ,ね、
長音	ー	¥?	¥?
中点	・	シフト /め・	シフト /め・
を		Wて Oら	シフト 0わを
ん		Nみ Nみ	Yん
ヴ		「R カナ」表示のときに Vひ Uな	「カナ」表示のときに 4ろう @゛
カ		Xさ Kの Aち または Kの シフト Aち	シフト Tか
ケ		Xさ Kの Eぃ または Kの シフト Eぃ	シフト :け
空　白		空白	空白

＊ シフト を押し、指を離してから文字キーを押すと小文字（促音・拗音）になりますが、「っゃゅょぁぃぅ」など促音・拗音にすることができる文字に限ります。

- ローマ字よみの詳細については、「ローマ字入力一覧」（74 ページ）をご覧ください。
- ,（カンマ）.（ピリオド）の入力方法については、54 ページをご覧ください。

漢字の入力

漢字を入力するには、まずその漢字の「よみ」をひらがなで入力します（例：「花」→「はな」）。
ひらがなから漢字に変えることを**変換**といいます。使いたい漢字が表示されたら、実行 を押して、他の文字に変わらないように**確定**します。

ひらがなから漢字に変換する方法は、次のとおりです。

- **文章を入力してから変換する**
- **同音異義語を変換する**（例：公園、後援など）
- **漢字 1 文字分ずつ変換する**（当て字や難しい固有名詞などの変換）

文章を入力してから変換する

文章を入力してから、まとめて漢字に変換します。
まとめて変換できる文字数は、32 文字までです。

［例］　今日行きます

1 **「きょういきます」をひらがなで入力します。**

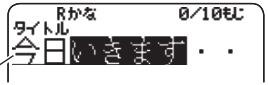
2 変換 **を押します。**

「きょういき」と「ます」という 2 つの言葉と認識されたため、「境域」と変換されます。

「境域」に下線が付いています

3 〈 **を 2 回押します。**

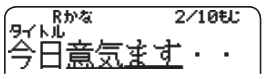
「きょういき」を「きょう」という言葉に区切るためです。



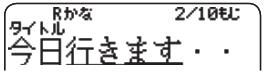
「今日」に変換されます

4 実行を押します。
「今日」が確定されます。
「いき」と「ます」という２つの言葉が残ったと認識されたため、「いき」が「意気」に変換されます。

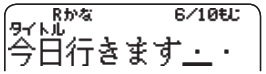
5 ›を２回押します。
「いき・ます」を「いきます」という言葉にするためです。



6 変換を何回か押して、「行きます」にします。
変換を押すたびに、「いきます」に当てはまる言葉が次々と表示されます。



7 「行きます」が表示されたら、実行を押します。
「行きます」が確定されます。



カーソルと下線の違い
カーソルは、文字が入る位置を示した目印で、点滅して画面に表示されます。ひらがなを漢字に変えるときに付く下線は、「現在、変換することができる部分」を示した印です。

・下線が付いているときに取消しを押すと、「よみ」の状態に戻ります。

例 きょう →(変換) 今日 →(取消し) きょう

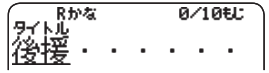
「よみ」を入れて変換を押しても目的の漢字に変換できないときは、単漢字変換を試してみましょう。
(53 ページ)

同音異義語を変換する

複数の漢字が当てはまる「よみ」(同音異義語) を変換する方法を説明します。

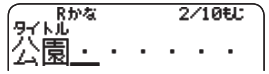
［例］ 公園

1 「こうえん」と入力し、変換を押します。
「こうえん」に合った漢字の候補が表示されます。



2 変換を何回か押して、「公園」にします。
変換を押すたびに、「こうえん」に当てはまる言葉が次々と表示されます。

3 「公園」になったら、実行を押します。
「公園」が確定されます。

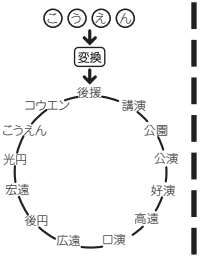


変換のルール
まず変換を押して、ひらがなを漢字に変換します。

↓

変換または﹀を押すと、次の漢字が表示されます。

機能を押し、指を離してから変換(前候補)を押す、または﹀を押すと、１つ前の漢字が表示されます（前候補）。



漢字１文字ずつ変換する（単漢字変換）

当て字や難しい固有名詞などを変換するときは、１字ずつ目的の漢字に変換します。

［例］　敦廣（あつひろ）

1 **「あつひろ」をひらがなで入力します。**

2 変換**を何回か押します。**
何回押しても、「敦廣」に変換されません

3 単漢字**を押します。**

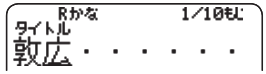
・もう一度 単漢字 を押すと、「あ」に当てはまる漢字が表示されます。もう一度 単漢字 を押すと、「あつ」に当てはまる漢字が表示されます。

「あつ」に合った漢字がいくつか表示されます

4 ^ ˇ < > **を押して、敦 にします。**

5 実行**を押します。**

「敦」が確定されます。



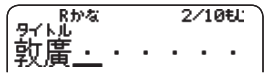
「広」に下線が付きます

6 変換**を何回か押して、「廣」にします。**

・ 単漢字 を押して「廣」を探すこともできます。

7 **「廣」になっていることを確かめて、** 実行**を押します。**

「廣」が確定されます。



思いどおりの漢字に変換されないのはなぜ？

次のようなことが考えられます。

- 「週（しゅう）」を「しゆう」と入力している
- 「図（ず）」を「づ」と入力している
- 「通り（とおり）」を「とうり」と入力している
- 「社食（しゃしょく）」「道交法（どうこうほう）」など、略語の読みを入力している

次の文字の入力には、特に注意してください。

- 「ぁ」「ぃ」「ぅ」「ぇ」「ぉ」「ゃ」「ゅ」「ょ」の拗音
- 「っ」の促音
- 「ず」と「づ」
- 「じ」と「ぢ」
- 「お」と「う」

アルファベット・数字・記号・絵文字の入力

アルファベット、数字、記号、絵文字の入れ方を説明します。

アルファベットの入力

［例］ ＡＫＩ

1 **aA を何回か押して、画面の左上に「ａｂ」または「ＡＢ」を表示させます。**

ａｂ：小文字を入力するとき
ＡＢ：大文字を入力するとき

2 **Aち Kの Iに と押します。**

アルファベットは、キーを押したと同時に、その文字に確定されます。

・カンマ（,） ピリオド（.）を入力するには

画面の左上に「ＡＢ」または「ａｂ」と表示されているときに、次のキーを押します。

カンマ：、 **ピリオド：**。

・大文字と小文字が混ざった文章を簡単に入力するには

「ＡＢ」表示のとき‥‥シフトを押し、指を離してから文字キーを押すと、その文字だけ小文字になります。

例 TAKESHI'S

「ａｂ」表示のとき‥‥シフトを押し、指を離してから文字キーを押すと、その文字だけ大文字になります。

例 English

数字の入力

［例］ １２３

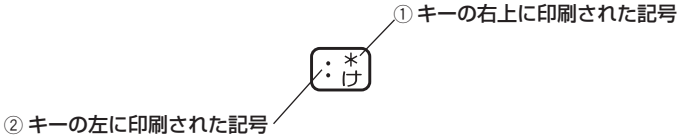
■かな入力のとき

1 **aA を押して、画面の左上に「ａｂ」または「ＡＢ」を表示させます。**

・ローマ字入力のときは、手順1の操作は不要です。

2 **1ぬ 2ふ 3あ と押します。**

記号（キーに印刷されているもの）の入力



■ローマ字入力の場合

① ：＊け を押すと ⟶ 「：」が入ります。

② シフト を押し、指を離してから ：＊け を押すと ⟶ 「＊」が入ります。

■かな入力の場合

① aA ⟶ AB ：＊け ⟶ 「:」が入ります。
を押すと
または
ab

② aA ⟶ AB シフト を押し、指を離してから ：＊け を押すと ⟶ 「＊」が入ります。
または
ab

記号（その他の記号）の入力

㍉ ♂ ㊟ ☜ ⑫ など

記号は「記述・カッコ」「学術」「単位・略」「一般」「数字」「ギリシア・ロシア」「診療科目」の 7 つのグループに分かれています。75 ページの記号一覧を見ながら、使いたい記号がどのグループに入っているのかを確かめてください。

[例] ☎ （グループ＝単位・略）

1 機能 **を押し、指を離してから** 記号 5%え **を押します。**

記号のグループ名

2 ^ v < > **を押して** 単位・略 **にし、** 実行 **を押します。**

3 ^ v < > **を押して** ☎ **にし、** 実行 **を押します。**

絵文字の入力

内蔵の絵文字を使うことができます。絵文字は 20 のグループに分かれています。
76 ～ 77 ページの絵文字一覧を見ながら、使いたい絵文字がどのグループに入っているのかを確かめてください。
また、文字体の指定は無効です。

［例］ （グループ＝食べ物）

1 機能 **を押し、指を離してから** 絵文字 6 &あ **を押します。**

絵文字のグループ名

2 ^ v < > **を押して** 食べ物 **にし、** 実行 **を押します。**

3 ^ v < > **を押して** **にし、** 実行 **を押します。**

文字を修正・削除するときは

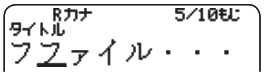
文字を間違えて入力したときの直し方と、入力してあるすべての文字を削除する方法を説明します。
フリーラベルでは、範囲を指定して削除することもできます。

文字を 1 文字ずつ消す

■カーソルの上の文字を消す

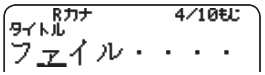
［例］「フファイル」の「フ」を消して、「ファイル」に直す

1 < > **を何回か押して、「フ」にカーソルを合わせます。**



2 文字削除 **を押します。**

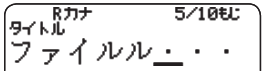
「ファイル」になります。



■カーソルの前の文字を消す

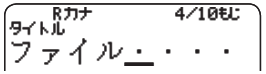
［例］「ファイルル」の最後の「ル」を消して、「ファイル」に直す

1 **消したい文字の次の文字にカーソルを合わせます。**



2 後退**を押します。**

「ファイル」になります。



確定前に文字を消すには…

ふふぁいるなど、文字に　　が重なっているとき（確定前）に文字を消すときも、文字削除または後退を押して消します。また、取消しを押すと、　　が重なっている文字がすべて消えます。

確定➔51 ページ

すべての文字を消す（文削除）

入力中の項目の文章をすべて消します。

1 機能**を押し、指を離してから**文字削除（文削除）**を押します。**

「削除しますか？」と表示されます。

- 文削除をやめるときは、取消しを押します。
  フリーラベルでは「全文削除」と「部分削除」の選択画面が表示されますので、ここで「全文削除」を選んで実行を押します。

2 実行**を押します。**

- 画面にあった文字はすべて消えます

■範囲を決めて消す（フリーラベルのみ）

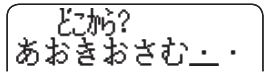
消したい部分の始めと終わりを指定して消す方法です。

［例］「あおきおさむ」を「おさむ」にする

1 機能**を押し、指を離してから**文字削除（文削除）**を押します。**

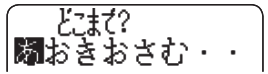
2 ＜＞**を押して**部分削除**を選び、**実行**を押します。**

操作をやめるときは取消しを押します。



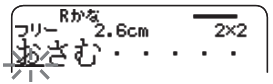
3 ＾＼＜＞**を押して消したい部分の最初の文字にカーソルを合わせ、**実行**を押します。**

ここでは「あ」にカーソルを合わせます。



4 ^ v < > を押して消したい部分の最後の文字を指定し、実行を押します。

ここではあおきにします。



間違った文字を直す

間違った文字を直す方法は、文字の入力方法が「挿入」状態になっているか、「上書き」状態になっているかで違ってきます。

挿入：文字と文字の間に新しい文字を追加できます。
上書き：表示されている文字を新しい文字に入れ替えることができます。

■「上書き」にするとき

シフトを押し、指を離してからあアを押します。

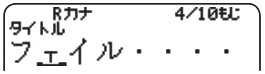
<挿　入>　　<上書き>

もう一度シフトを押し、指を離してからあアを押すと、「挿入」状態に戻ります。

[例]「フェイル」を「ファイル」に直す

■間違った文字を消して正しい文字を入力する（「挿入」状態）

1 < > を押して「ェ」にカーソルを合わせます。

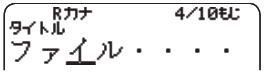


2 文字削除を押します。

「ェ」が削除され、「イ」が「ェ」の位置に移動します。

3「ァ」を入力します。

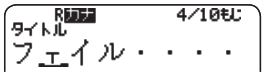
・「ァ」はシフトを押し、指を離してからAちを押して入力します。



「ァ」が「イ」の前に入力されます

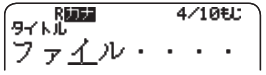
■間違った文字の上に正しい文字を入力する（「上書き」状態）

1 **〈〉を押して「ェ」にカーソルを合わせます。**



2 **「ァ」を入力します。**

「ェ」が「ァ」になります



・直す文字数よりも入力する文字数が多いと、必要な文字まで新しい文字に入れ替わってしまいます。ご注意ください。

「設定」で切り換えるには

1 機能を押し、指を離してから8(設定)を押します。

2 ^vを押して「入力設定」を選び、実行を押します。

3 〈〉を押して「上書き」または「挿入」を選び、実行を押します。

確定前に文字を直したり追加するには…

ふぇいるなど、文字に[redacted]が重なっているとき（確定前）に文字を直したり追加するときも上と同じ操作で直します。

確定➔51 ページ

書体（フォント）を変える

入力済みの文字の形（書体）を、和文２書体・英数４書体の中から選ぶことができます。
また電源を入れたときの書体を決める設定方法についても説明しています。

■和文書体

明朝体	ゴシック体
亜あ	亜あ

■英数書体

明朝体	ゴシック体
AB12	AB12
ステンシル	ポップ
AB12	AB12

・メモリーの初期化をすると、「和文：明朝体」「英数：和文と同じ」に設定されます。

・英数書体は、次の文字が指定の対象になります。
  ・アルファベット（Ａ～Ｚ　ａ～ｚ）
  ・数字（１２３４５６７８９０）
  ・記号の一部（，．　？！ー～（　）￥%スペース）

入力済みの文字の書体を変える

ヒーリングMUSIC集

［例］（「ヒーリング」「集」をゴシック体に、「MUSIC」をステンシルにする）

1 **文字を入力します。**

2 **フォント を押します。**

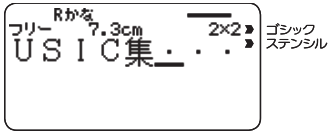
3 **＜ ＞を押して ゴシック を選び、∨を押します。**

（和文書体の種類を選びます。）

4 **＜ ＞を押して A ステンシル を選び、実行 を押します。**

（英数書体の種類を選びます。）

設定後、文字入力の画面に戻ります。



電源を入れたときの書体を決める

1 機能を押し、指を離してから設定 8ゆを押します。

2 ^ v を押して**初期フォント**にし、実行を押します。

3 ^ v を押して和文フォントを選んだ後、< > を押してフォント名を選びます。

4 ^ v を押して英数フォントを選んだ後、< > を押してフォント名を選びます。

5 実行を押します。

6 切を押して一度電源を切り、再び入を押して電源を入れます。

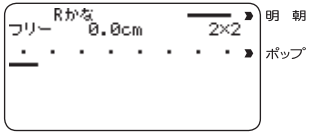
7 **文字入力の画面を表示させます。**

文字は指定したフォントで入力できます。

- 「登録データ」や「前回データ」を選択し呼び出したデータを使う場合は、現在の書体ではなくそのデータの作成時の書体が優先されます。

画面表示について

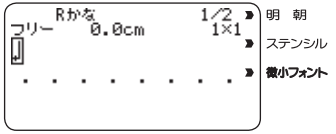
- 入力中の文字の書体を■で示します。



- 英数書体は書体ごとに大きさ、バランスが設定されていますので、混在させるとバランスが不釣り合いになることがあります。

微小フォントについて

印刷するときは行数（入力した行数または選んだフォーマットの行数）とテープ幅によって微小フォントで印刷されます。このとき、画面右に「微小フォント」の■が点灯します。



微小フォントには、次のような特徴があります。

- フォントの設定は無効です。（すべて同じフォントで印刷されます）
- 文字体または文字修飾を設定すると、きれいに印刷できないことがあります。
- 絵文字の場合は、きれいに印刷できないことがあります。

文字を目立たせる

文字を「太字」「白抜」「影付」「立体」にして目立たせることができます（文字体）。
・絵文字は、文字体の指定はできません。

標準

住所録

太字

住所録

白抜

住所録

影付

住所録

立体

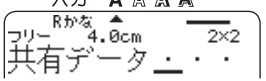
住所録

1 文字を入力します。

2 機能を押し、指を離してから 文字体 2”ふ を押します。

3 ^ v < > を押して文字体の種類を選び、実行を押します。

・A 標準を選ぶと、指定済みの文字体を通常の文字に戻すことができます。
・設定後、文字入力の画面に戻ります。



画面上の「A」（太字）・「A」（白抜）・「A」（影付）・「A」（立体）に▲が付きます。
標準の場合は何も付きません。

文字に飾りをつける

文字に網を掛けることや、下線や枠を付けることができます。

網　掛	下　線	枠　付
修飾	修飾	修飾

1 文字を入力します。

2 機能を押し、指を離してから文字修飾 3 #あを押します。

3 ^ v を押して文字修飾の種類を選びます。

・用途別ラベルの文字修飾が指定できるフォーマットでは、「枠付」の「あり」「なし」を選ぶ画面が表示されます。「網掛」「下線」を選ぶことはできません。

4 < > を押して手順３で選んだ文字修飾の「なし / あり」を選び、実行を押します。

・設定後、文字入力の画面に戻ります。

文字修飾を重ねることもできます

網掛＋枠付

網掛＋下線

・ただし、文字の大きさによっては、文字や修飾が重なって印刷されることがあります。

設定編

文字の入力方法や画面の明るさなど、本機を操作するための設定方法について説明します。

設定を変える

文字の入力方法や画面の明るさなどの設定を使いやすいように変更することができます。

設定できる項目

電源を入れて最初に[機能]を押し、指を離してから[設定 8ゆ]を押すと、右の画面が表示されます。

[∧][∨]で設定したい項目を選んで画面を切り替え、設定を変更します。

・電源を入れた直後以外の画面では、一部の項目が画面に表示されないことがあります。

設定項目		内容	ページ
入力設定	挿入 / 上書き	文字の入力方法を決める	58
	ローマ字入力 / かな入力	日本語の入力方法を決める	49
輝度調整		画面の濃淡を調整する	64
印刷濃度		印刷の濃さを調整する	64
初期フォント		入力文字の最初の書体を決める	61
デモ印刷		ラベルの印刷例を印刷する	65

画面の明るさを変えたい

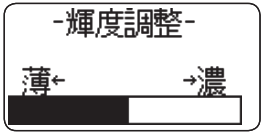
画面の表示が見えにくいときは、画面の明るさ（コントラスト）を調整することができます。

1 **[機能]を押し、指を離してから[設定 8ゆ]を押します。**

2 **[∧][∨]を押して輝度調整を選び、[実行]を押します。**

3 **[<][>]を押して明るさを調整し、[実行]を押します。**

[<]を押すごとに薄く、[>]を押すごとに濃くなります。



印刷の濃さを変えたい

印刷された文字が薄かったり、濃かったりしたときは、お好きな濃さに変えることができます。

1 **[機能]を押し、指を離してから[設定 8ゆ]を押します。**

2 **[∧][∨]を押して印刷濃度を選び、[実行]を押します。**

3 **[<][>]を押して濃さを設定し、[実行]を押します。**

1にすると1番薄く印刷され、5にすると1番濃く印刷されます。

- 印刷の濃さの設定を変更しても、使用環境や使用状況が変わらない場合は、実際に印刷される濃度が変わらないことがあります。

サンプルデータを印刷する（デモ印刷）

内蔵のサンプルデータを印刷して、本機でどんなラベルが作れるかを見ることができます。

重要 デモ印刷をすると、前回作成したデータは消えてしまいます。大切なデータの場合には、登録してから印刷をしてください。（データの登録→ 46 ページ）

1 **テープカートリッジがセットされていることを確認します。**

- テープカートリッジについて→ 15 ページ

2 **電源が入っているときは(切)を押して電源を切ります。**

3 **(入)を押して電源を入れます。**

4 **[機能]を押し、指を離してから[設定 8ゆ]を押します。**

5 **[^][v]を押してデモ印刷を選び、[実行]を押します。**

6 **[<][>]を押して印刷を選び、[実行]を押します。**

重要 印刷するときは、24 ページの注意事項をご覧ください。

7 **「枚数　1 枚」「カットモード　通常」になっていることを確認します。**

- 印刷枚数やカットモードを変更することもできます。25 ページ「印刷とカットモード」をご覧ください。
- 特殊なテープで印刷するときは、テープカートリッジに合わせて、カットモードを変更してください。（25 ページ）

8 **[実行]を押します。**

- 印刷が始まります。
- セットしているテープカートリッジの幅によって、印刷される内容は異なります。

9 **印刷が終了したら[<][>]を押して終了を選び、[実行]を押します。**

「終了しますか？」と表示されます。

10 **[実行]を押します。**